

人と自然が輝く

やすらぎと活力の大地


陸奥の国



むつ市新体育館基本構想・基本計画



平成28年3月

 むつ市



むつ市新体育館基本構想・基本計画

平成28年3月

む つ 市

基本構想・基本計画の策定にあたって

基本構想

I 現状と課題

1. むつ市の屋内体育施設配置の現状と課題・・・・・・・・・・2
 (1) むつ市の屋内体育施設配置の現状
 (2) むつ市の屋内体育施設配置の課題
2. 旧むつ市民体育館の状況と課題・・・・・・・・・・4
 (1) 旧むつ市民体育館の状況
 (2) 旧むつ市民体育館の施設の課題
3. 市民意見に見られる旧施設の課題と新体育館への要望・・・・・・・・8
 (1) むつ市民への意向調査
 (2) 市民への意向調査における課題と要望の整理
 (3) むつ市屋内体育施設に関する関連計画との整合性の確認
 (4) むつ市都市計画マスタープラン等との整合性の確認

II 新体育館建設の基本的な考え方

1. スポーツスクエアの形成と新体育館の基本テーマ・・・・・・・・19
 (1) スポーツスクエアの形成
 (2) スポーツスクエアにおける新体育館の基本テーマ
2. 新体育館の基本整備方針・・・・・・・・・・20
3. 新体育館の主要諸室・・・・・・・・・・22
 (1) 施設整備基本方針
 (2) 施設整備基本方針の検討事項
4. まとめ・・・・・・・・・・25

基本計画

III 建設地の概要

1. 建設地の現状・・・・・・・・・・28
2. 建設地の法的条件等・・・・・・・・・・28

IV 施設・構造・設備計画

1. 基本施設計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
 - (1) 基本施設計画における部門面積と想定仕様
 - (2) 配置基本計画の機能構成
 - (3) 施設基本計画の機能構成と部門配置
 - (4) 想定競技種目の選定
 - (5) アリーナの規模算定
2. 構造計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
 - (1) 地盤・基礎形式
 - (2) 耐震性能と架構・構造形式
3. 設備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
 - (1) 電気設備
 - (2) 空調・給排水設備
 - (3) 災害時対応設備

V 事業手法の検討・管理運営方針の検討

1. 事業手法の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
 - (1) 検討対象とする事業手法の選定
 - (2) 官民連携手法導入可能性の評価
 - (3) 新体育館の事業手法の選定
2. 施設管理・運営方針の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
 - (1) 検討対象とする施設管理運営手法の選定
 - (2) 施設管理運営基本方針
 - (3) 施設管理運営方式の比較検討
 - (4) 今後の検討項目

VI 事業スケジュール及び事業費概算

1. 事業スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
2. 事業費概算・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

VII 市民意見に見られる新体育館への要望

1. むつ市民への意向調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
2. 市民への意向調査における要望の整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

基本構想・基本計画の策定にあたって

近年、市民のスポーツへの関心度が高まっており、平成26年度には、むつ市の所有するスポーツ施設の利用者は53万人に達し、年間約300回の大会等が開催されており、このことから市民のスポーツ志向の高まりがうかがえるところです。

しかしながら、長きにわたり市民に親しまれてきた市民体育館が、平成25年11月閉鎖となり、市民のスポーツ活動の場が減少したことから、スポーツニーズに十分応えられない状況にあり、市民からは、新体育館の建設を望む声が多く寄せられております。

本市の「むつ市長期総合計画」では、目指す市の将来像として『人と自然が輝く やすらぎと活力の大地 陸奥の国』を掲げ、「スポーツ・レクリエーション活動の充実」に努め、スポーツ・レクリエーション施設の整備を計画的に進めることとしております。

また、平成26年3月には、「むつ市スポーツ推進計画」を策定し、「計画的な公共スポーツ施設等の整備、充実」を重点プロジェクトと位置付け、同時に策定した「むつ市スポーツ施設整備計画」において、市民総合体育館の整備方針を示しております。

そこで、新体育館建設にあたり、市の上記計画の理念を踏まえ、スポーツを通じて、いつまでも心身ともに健康で豊かなライフスタイルを持続できる生涯スポーツ社会の実現のためには、市民にとって日常的に利用しやすく、快適で、子ども達から高齢者まで、ビギナー（初心者）からアスリート（競技者）まで幅広く利用できる「場」としての整備が不可欠です。

さらに、まちづくりの観点からも、人と地域をつなぐ交流の場として地域コミュニティの醸成への寄与や、東日本大震災の経験から、震災・風水害などの自然災害に対する防災機能の充実により、救援物資集積などの災害時支援機能強化による、総合的な防災体制の充実への寄与といった点にも配慮した施設整備の必要性が高まっています。

本施設を整備するにあたっては、市民ニーズを的確に捉え、必要な機能や設備などを見定めるとともに、整備、管理・運営における財政負担の縮減に配慮し、策定予定の公共施設等総合管理計画などのコンパクトシティ構想による持続可能なまちづくりや、むつ市国土強靱化地域計画に基づく防災機能強化など、むつ市にふさわしい新体育館建設の取組を進めるものであります。

以上を踏まえ、市民に愛される、市民のための新体育館を整備すべく、その整備方針を基本構想・基本計画として取りまとめました。

基本構想

I 現状と課題

1. むつ市の屋内体育施設配置の現状と課題

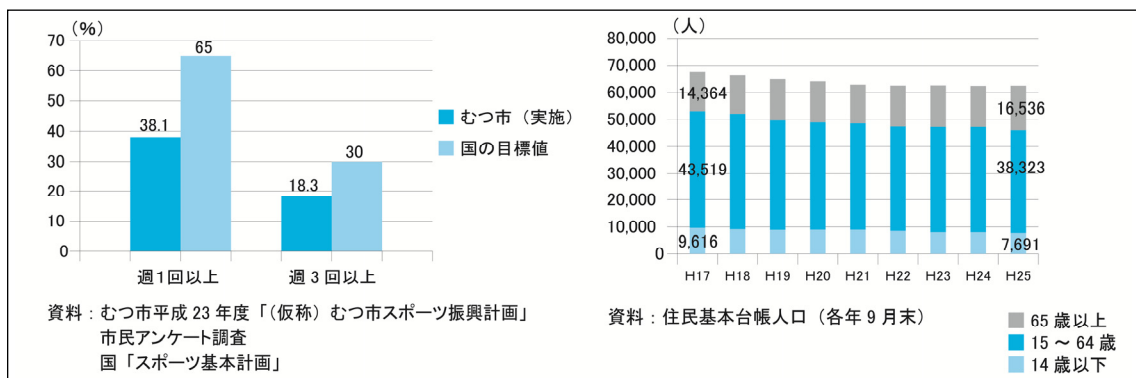
(1) むつ市の屋内体育施設配置の現状

本市は、「むつ市スポーツ推進計画」において、4つの基本目標を掲げ、市民の誰もが、いつでもどこでもスポーツに親しみ、生涯にわたって心身ともに健康で、豊かな生活を実現していくために、スポーツ環境を整え、市民一人ひとりが日常生活のなかにスポーツを取り入れることのできる、生涯スポーツ社会の実現を目指しています。

また、「むつ市健康増進計画（第2次健康むつ21）」を策定し、「市民一人ひとりが主体的に取り組む健康づくりと健康寿命の延伸」を目標とし、健康づくりの促進を重点課題の一つとして取り組んでいます。

しかしながら、平成23年度の市民アンケートでは、むつ市民のスポーツ実施率は、週1回以上のスポーツを行っている人は38.1%、週3回以上の実施率は18.3%となっており、国のスポーツ基本計画目標である、成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人（65%程度）、週3回以上のスポーツ実施率が3人に1人（30%程度）を下回っており、市民のスポーツ実施率を上げていく必要があります。

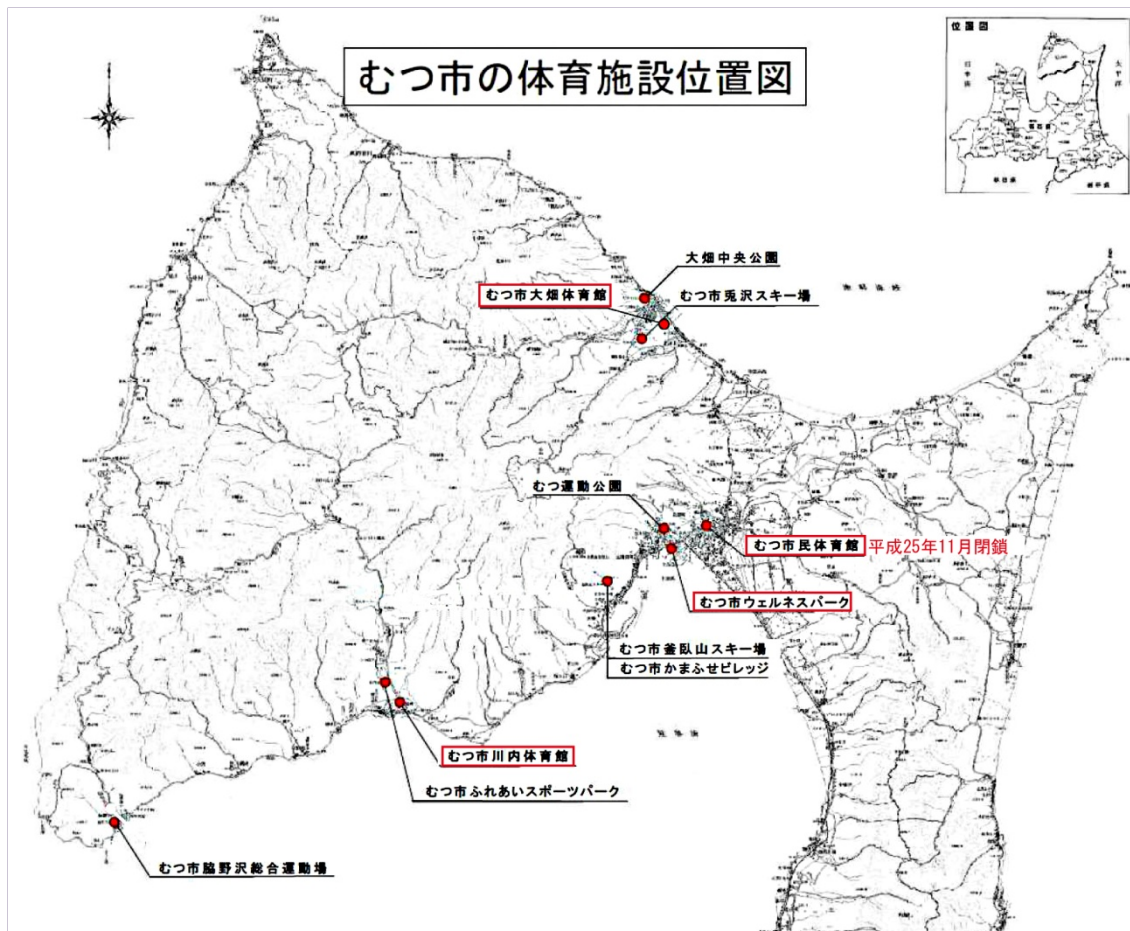
年齢区分では、平成17年から平成25年の8年間で、高齢者人口が2,172人増加した一方で、年少人口が1,925人、生産年齢人口が5,196人とそれぞれ減少しています。こうしたことから、高齢化率は5.1ポイント増加し、少子高齢化が進んでおり、スポーツ施設の利用者構成も変化していることを示しています。



一方、むつ市内には、4つの屋内体育施設があり、各地域において市民の日常のスポーツ活動の場として有効に利用されてきましたが、平成25年11月に、市中心部に立地する旧むつ市民体育館が閉鎖され、市のスポーツ環境に大きく影響を及ぼしました。

旧むつ市民体育館の利用率は、スポーツ人口の5.6%（平成23年度「（仮称）むつ市スポーツ振興計画」市民アンケート調査より）を占め、ウェルネスパークに次いで利用者が多かった施設であり、閉鎖となった現在は、学校体育施設開放事業における小

中学校体育館や、高等学校体育館、川内体育館、大畑体育館を利用し、市民のスポーツの場を補っている状況となっています。



資料：市民スポーツ課

(2) むつ市の屋内体育施設配置の課題

以上より、屋内体育施設の配置に関する課題を以下に整理します。

施設数の充足 → 旧むつ市民体育館に代わる施設の整備

2. 旧むつ市民体育館の状況と課題

(1) 旧むつ市民体育館の状況

旧むつ市民体育館は、耐震基準値を理由に、平成25年11月30日、築37年で閉館となりました。その他にも施設の老朽化、狭隘化、バリアフリー化の遅れなどにより、社会的要請や市民ニーズとの間にかい離が進んでいました。

ここでは、旧むつ市民体育館の状況の調査と、管理者へのヒアリングや、既往の調査資料を元に、施設的な課題を抽出します。

【施設概要】

所在地	むつ市金谷一丁目7番26号
床面積	2,279.0㎡（うちアリーナ部 1,019.2㎡）
構造	鉄筋コンクリート造一部2階建
竣工	昭和51年7月（平成25年11月30日閉鎖）
その他	駐車場なし

【諸室概要】

施設	面積	収容人数	利用人数
メイン アリーナ	フロア 1,019.2㎡ (36.4m×28m×最高13.7m)	2F 固定席 512人	バスケットボール (2面)
	ステージ 83.2㎡ (正面16m、奥行き5.2m)		テニス (1面) バドミントン (6面) 卓球 (10面)
その他	シャワールーム、更衣室、放送室、静養室、ミーティングルーム、事務室、機械室		







【利用状況】



むつ市スポーツ大会・スポーツ教室等の開催状況（平成25年11月閉館のため平成24年度までの集計）

種 目	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
バレーボール	14回	14回	18回	15回	18回
バスケットボール	—	—	—	—	1回
バドミントン	7回	6回	7回	7回	5回
フットサル	—	—	1回	—	1回
卓球	8回	6回	8回	6回	7回
柔道	2回	—	1回	2回	—
剣道	1回	2回	2回	1回	2回
武術太極拳	—	—	—	—	2回
綱引き	1回	2回	2回	2回	2回
総合スポーツ大会 他	5回	6回	5回	7回	5回
スポーツ教室・他	9回	10回	10回	11回	11回

資料：平成20年度～平成24年度 むつ市スポーツカレンダーより

【現状調査】

	<ul style="list-style-type: none"> ・正面玄関及びエントランスホールが狭く入退場の安全確保が困難 ・ラウンジなどの交流スペースがない ・正面玄関及びエントランスホールが狭く大会時など、大人数が集まれるスペースがない
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージは床から1m程度と高めの設定。天井高約13m ・メインコートと内壁の空間が狭く大会時は手狭 ・ステージ下にパイプ椅子収納等、必要備品の収納場所の検討必要 ・老朽化により、舞台機構は使用不能、床にはふりく不陸が見られる ・照明器具に自動昇降機能がない ・ステージは大会時の役員席や選挙時の開票場として利用
	<ul style="list-style-type: none"> ・2階観覧席は全国大会クラスでは少ない ・上部通路が狭く、観客移動に支障がある ・2階席への移動が階段しかなく、車椅子対応席がない ・観客席としての2方向避難経路が確保できていない（興行場法非対応）
	<ul style="list-style-type: none"> ・中央の仕切りがアコーディオンカーテンのため防音性がない ・収納不足 ・1階に会議室がない。（障がい者、高齢者の利用のしやすさ）

	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模スポーツイベント時にトイレ数が不足する ・トイレ内の通路幅が狭く、手摺もない ・車椅子用トイレが無い
	<ul style="list-style-type: none"> ・シャワー室は脱衣室が更衣室と兼用。利便性が低い ・トイレ、シャワー室共、ブースが狭く、車椅子や障がい者が利用できない

参考に、川内体育館（築27年※）、大畑体育館（築46年※）の施設概要も下記に整理します。いずれも、旧むつ市民体育館と同様の課題を抱えており、代替施設として利用するには難しいと考えます。

※ 平成27年12月現在

【むつ市川内体育館、むつ市大畑体育館概要】

	むつ市川内体育館	むつ市大畑体育館
所在地	むつ市川内町榎木 153 番地	むつ市大畑町中島 108 番地 5
床面積	1,310.0 m ² （うちアリーナ部 952.0 m ² ）	1,547.0 m ² （うちアリーナ部 972.0 m ² ）
構造	鉄筋コンクリート	鉄骨造
竣工	昭和 63 年 5 月	昭和 44 年 12 月
その他	駐車場あり	駐車場あり

(2) 旧むつ市民体育館の施設の課題

以上より、旧むつ市民体育館の施設の課題を以下に整理します。

- | | |
|-------------|--|
| 1) 構造的課題 | → 耐震基準値の確保 |
| 2) 規模的課題 | → スポーツコート外の空間を含めた十分な競技スペースの確保。興業場法に適合した観覧席の整備等 |
| 3) 機能的課題 | → 会議室、トイレ、シャワールームの狭隘化の解消、サブアリーナの整備、ロビー空間の確保等 |
| 4) 利便性の向上 | → バリアフリー化、エレベーターの設置、車いす利用者用トイレや駐車場の整備、十分な駐車場面積の確保等 |
| 5) 安全性の向上 | → 廊下の狭隘化、避難経路の確保、バリアフリー化等 |
| 6) 社会的要求の充足 | → 防災拠点機能（集積所、救護所等）としての利用に対応した、非常用発電設備や通信設備の機能強化等 |

3. 市民意見に見られる旧施設の課題と新体育館への要望

(1) むつ市民への意向調査

基本構想策定にあたり、むつ市のスポーツ振興に尽力して頂いている各競技団体代表の方々との懇話会、メールモニター・各競技団体へのアンケート、市民ワークショップを通して、市民から頂いたご意見を前述の課題を踏まえ整理し、課題の抽出と要望を整理します。

【各競技団体代表の方々との懇話会意見】

むつ市新体育館基本構想・基本計画策定業務に係る意向調査

開催日：平成27年9月18日

場 所：むつ市役所第4会議室

出席者：むつ市体育協会加盟各競技団体代表 6名、事務局、基本構想・基本計画策定業務委託業者

	課題	要望
立地	—	—
施設規模	狭隘化により大会が開催できない	各種公式大会(東北大会、県大会等)の開催
	公式コートが確保できない	公式コートの確保
	観覧席が少なく、観客も競技フロアに溢れる	観覧席(400~500席)の確保(2000~2500席という意見もあり)
	卓球の大会での面数の不足(複数会場に分散)	バレー:メインアリーナ3面、サブアリーナ1面
	他の競技でも面数が不足	バスケ:メインアリーナ4面、サブアリーナ2面
		バドミントン:8面
		卓球:メインアリーナ40台、サブアリーナ20台
施設機能(屋内)	大会運営側のスペースの確保	ステージを大会役員席とするが、常設・可動の両意見あり
	学校体育館では練習環境として不足	練習環境の充実
	青森県内の市で、むつ市のみ武道館を持っていない	武道館の併設
		雨天時や早朝にジョギングできる機能が欲しい
		飲食可能な休憩機能
		ステージ(大会役員席)近くに給湯室があると便利
		備品(器具類)を納めるのに十分な器具庫
施設機能(屋外)	大会開催時の車両の整理	大型バスなどの駐車場の確保
利便性		日常的に、1/2面、1/4面利用などが可能とする
		ネットを挟んで異種競技ができるようにする
運用、運営		スポーツ以外にもイベント等に利用可能とする
		維持管理費を抑えた実用的な施設
その他		単なる施設整備(建替え)ではない施設整備を考えるべき
		まちづくりの一つの契機となる施設整備
		近隣の宿泊施設の有無 合宿所があれば強化練習が可能となる

意見の要約を以下に整理します。

- ・ 公式大会が開催できる規模の体育館
- ・ 附帯設備、練習環境の整った体育館
- ・ 利用しやすく維持管理のしやすい体育館
- ・ まちづくりの一つの契機となり多目的に利用できる体育館

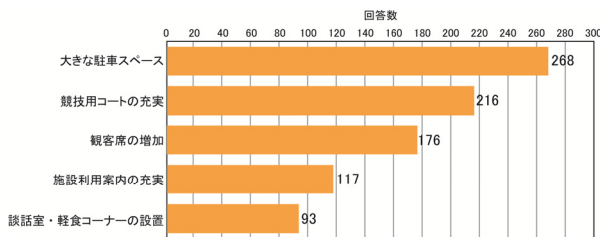
【メールモニター・各競技団体へのアンケート結果】

1. メールモニターアンケート

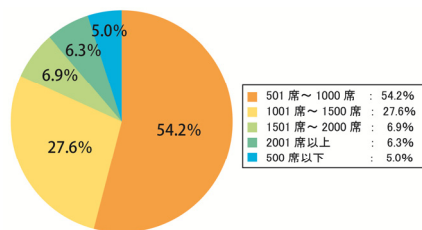
開催期間：平成27年11月9日～16日

回答者数：320名

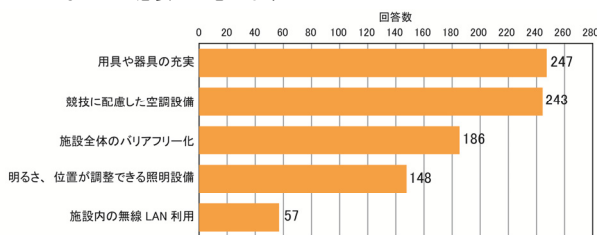
質問1. 新体育館の機能を充実させるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか？



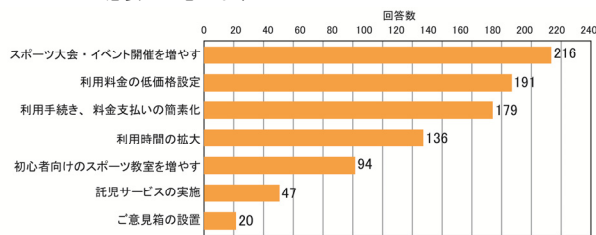
質問2. 観客席の数は、何席程度必要だと思いますか？



質問3. 新体育館の設備を充実させるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか？



質問4. 新体育館の運営を充実させるため、特にどのようなことが必要だと思いますか？



質問1では、回答者の83.7%が駐車場スペースを選択しており、市民の駐車場に対する要望の高さを示しています。また、競技用コートの充実は67.5%、観客席の増大は55.0%の回答があり、半数以上が必要と感じています。競技用コートの充実についての自由回答を下表に整理しましたが、バスケットボール2面、バレーボール2面、テニス4面、フットサル2面が最多回答数で、その他バドミントン、卓球、柔道、剣道などが続いています。このご意見は規模算定の参考とします。

競技種目	1面	2面	3面	4面	5面	6面	8面	10面	20面	30面	40面	備考
バスケットボール	2	110	25	26		1	1					
バレーボール	4	17	7	12								
テニス		9	3	9		2						面数の多い方を選択
フットサル	2	7		1								
バドミントン	1		1	2		1		2				面数の多い方を選択
卓球									1	1	1	面数は20～40面
剣道						1						
柔道・空手	1					1						
その他	陸上トラック、野球×3票、サッカー×3票は屋外競技のため参考意見とする ドッジボール、ハンドボール、運動会、マーチングバンド大会、東通村体育館×4票、しもきた克雪ドーム×3票、多目的室の設置、カーリング場の設置											

※: 旧市民体育館で行われていた競技種目かつ、最多答数を得た面数として、規模算定の参考とする

質問2では、54.2%の市民が500～1,000席と回答しており、1,500席まで含めると81.8%となります。

質問3では、用具や器具庫の充実が77.1%、空調設備が75.9%と7割を超える回答を得ており、バリアフリー化も58.1%と半数以上の回答を得ており要望の高さを示しています。

質問4では、スポーツイベント開催数の増加が67.5%、利用料金の低価格設定が59.6%、利用手続き等の簡素化が55.9%と半数以上の回答を得ており、施設運営の課題として検討が必要と考えます。

また、その他の自由意見の概要を以下に整理します。

分類	回答数	概要
早期建設	31	
使いやすさ(施設面)	30	市民のための体育館、気軽に利用できる体育館、フィットネスジム、マシンジム、ランニングコース、キッズスペース、床材の選定、シャワールーム、ロッカールーム、武道場、障がい者が利用できるトレーニングルーム、バリアフリー、障がい者対応、ボルダリング、コート周辺スペースの確保、幅広い層の利用、観覧席、食事のできるスペース、スポーツ選手育成より市民のための体育館を望む、フットサル可能、こどもの安全対策、下駄箱、暖房設備、衛生的なトイレ
多目的利用	20	運動会、コンサート、各種イベント、音響設備の充実
大会の開催	16	武道大会開催
防災機能強化	11	耐震性、避難所利用
使いやすさ(運営面)	10	低利用料金、清掃、予約のしやすさ、市民のための体育館、民間サービス業のような利用者第一の運営、小分けで借りれる、細やかな情報発信、利用時間拡大、初心者・経験者用のプログラム、イベント、深夜帯のプログラム
駐車場、交通	8	
プロスポーツ誘致、プロ選手の招待	7	
身の丈にあった施設づくり	7	内装はシンプルに設備に費用をかける、根本的な機能に投資、第三者の監査を入れて自慢できる施設づくり、市民に負担をかけない、既存施設と隣接による共用、無駄のない計画
機能非特化	7	中途半端なものにしてほしくない
立地(運動公園隣接)	5	運動公園に隣接、海拔の低い土地は防災上不適
立地(ウェルネスパーク隣接)	4	しもきた克雪ドーム隣接
維持管理費の掛からない施設	4	自然エネルギー利用
多機能施設	3	プール、野球室内練習場、公園、遊具、弓道場、野球(ドームより大きく)
経済効果	3	
不要	2	既存の施設で賄える機能なら、新たに建設する必要なし
機能特化	1	紫波町体育館+合宿所、鳥取ワールドウイング、合宿所、プロの合宿
その他	9	モラル向上、立地は重要、マラソン大会、面白い外観デザイン、下北を象徴するデザイン、教室、大会を最後まで続ける、東通村体育館以上の施設、自慢できる体育館、十和田市、八戸東体育館、スポカルイン黒石、弘前市武道館等を参考に、立地は街なかが良い

早期着工が17.4%と最も多く、使いやすさ(施設面)が16.8%と次いで高くなっています。

立地については、運動公園隣接地とウェルネスパーク隣接地の2候補地が上がっており、ほぼ同数となっています。

2. 各競技団体へのアンケート

開催期間：平成27年11月9日～16日

回答者数：38名（配布数70名） 回答率54.2%

回答者属性：バレーボール6名、テニス6名、バスケットボール5名、卓球4名、バドミントン3名、柔道・空手4名、弓道3名、ゲートボール3名、太極拳2名、フェンシング1名、綱引き1名 計38名

アンケート2.1 利用している施設								未記入	有効回答数	有効回答率
①しもきた克雪ドーム	②大畑体育館	③川内体育館	④その他(学校体育館)	④その他(文化施設等)						
10	6	2	9	10				1	37	97.4%
アンケート2.2 利用している理由								未記入	有効回答数	有効回答率
①立地が良い	②利用料金が安い	③夜間の利用が可能	④設備充実している	⑤スタッフの方々の顔見知り	⑥利用者が少ない					
15	8	13	10	3	3			6	52	136.8%
アンケート3 活動頻度								未記入	有効回答数	有効回答率
①ほぼ毎日	③週に3～5回	②週に1～2回	④月に1～3回	⑤2～3ヶ月に1回程度	⑥年に1～3回程度					
0	10	19	9	1	1			3	40	105.3%
アンケート5 メンバーの属性								未記入	有効回答数	有効回答率
①小・中学生	②高校・大学生	③一般成人	④高齢者	⑤障がい者	⑥その他					
10	6	31	13	2	1			1	63	165.8%
アンケート7.1① スポーツ施設の機能の充実化に必要と思われるもの								未記入	有効回答数	有効回答率
①施設利用案内	②談話室・軽食コーナー	③競技用コート	④観客席	⑤大きな駐車場	⑥その他					
10	5	34	12	27	5			1	93	244.7%
アンケート7.1② 競技用コートの広さ								未記入	有効回答数	有効回答率
バスケットボール2面	バレーボール3面	バスケットボール3面	卓球30面	テニス4面	バドミントン10面	武道場6面	⑧その他(未記入含)			
7	4	3	2	1	1	1	16	3	35	92.1%
アンケート7.1③ 観客席数								未記入	有効回答数	有効回答率
①500席以下	②501席～1000席以下	③1001席～1500席	④1501席～2000席	⑤2001席以上						
4	12	9	4	7				2	36	94.7%
アンケート7.2 設備の充実化に必要と思われるもの								未記入	有効回答数	有効回答率
①用具や器具の充実化	②競技に配慮した空調設備	③施設全体のバリアフリー化	④明るさ、位置が調整できる	⑤施設内の無線LAN	⑥その他					
32	29	16	20	3	4			2	104	273.7%
アンケート7.3 運営の充実化に必要と思われるもの								未記入	有効回答数	有効回答率
①利用時間の拡大	②利用料金	③利用手続きの簡素化	④託児サービス	⑤大会・イベントの開催	⑥意見箱	⑦初心者向けのスポーツ教室	⑧その他			
16	14	18	1	27	4	7	10	2	97	255.3%

■ : 最多回答数 ■ : 次点回答数

このアンケートの配布先は、むつ市内で活動しているスポーツ団体に所属する利用者を対象としており、具体的に現状の屋内体育施設の問題点と、新体育館への要望を抽出するために行いました。

アンケート2.1 現在利用している施設では、10名がしもきた克雪ドームと回答していますが、次いで多い学校体育館と大畑・川内体育館を加えると、体育館だけで17名が回答していることとなり、しもきた克雪ドームではできない競技（バスケットボール、バレーボール等）の利用者数が多く、体育館が不足していることを示しています。

アンケート 2.2 利用理由では、市民の交通手段が車であり、立地が良いということが、車で来やすく駐車場が確保されていることとも捉える事ができます。

アンケート 5 メンバー属性では、一般成人に次いで、高齢者が多いことは特徴的と言えます。今後の新体育館において、高齢者の利用への配慮が重要であることを示しています。

アンケート 7 新体育館への要望につながる質問が多く、複数回答の回答率が273.7%と市民の関心の高さが見てとれます。

アンケート 7.1 ①機能充実では、競技コートと駐車場の整備が半数以上の回答を占めており、メールモニターアンケートとも一致しています。

アンケート 7.1 ②競技コートの面積では、バスケットボール2面はメールアンケートと共通していますが、バレーボールコートは3面という意見が多く、検討の余地があると言えます。

アンケート 7.1 ③観客席数については、メールアンケートと同じ結果を示しています。

アンケート 7.2 メールアンケートと同じ結果を示しており、用具の充実はもちろんですが、現状の課題として空調設備を重視していることが読み取れます。

アンケート 7.3 ほぼメールアンケートと同じ結果を示していますが、利用率の高いユーザーにとっては、利用料金の低価格化より、手続きの簡素化の方が課題として重要視されていると言えます。

以上、計364名の市民の方々からご意見をいただきましたが、この結果より市民が課題と感じている部分を大きく、以下の7項目に分類します。

1. 駐車場の確保
2. 競技コートの広さ、面数の不足（バスケットボールコート2面分以上は必要）
3. 用具、器具の充実
4. 附帯施設（シャワールーム、キッズルーム等）の充実
5. 大会、イベント等の開催
6. 附帯設備（特に空調、照明等）の充実
7. 手続きの簡素化などの運営による利用者の使いやすさ

【市民ワークショップ 第1回】

開催日：平成27年11月7日 10:00~12:00

場 所：むつ市中央公民館 講堂

第1回市民ワークショップでは、旧むつ市民体育館の現状に対する課題と、新体育館への要望について多岐にわたる貴重なご意見をいただくことができました。



第1回 むつ市新体育館市民ワークショップを開催しました！



平成27年11月7日(土)10:00~12:00に、むつ市中央公民館講堂において、第1回むつ市新体育館市民ワークショップを開催しました。各スポーツ協会の方々を中心に、22名の方にご参加いただきました。2時間という短い時間でしたが、旧むつ市民体育館の代わりとなるだけでなく、まちづくりの拠点としての新しい体育館の計画について多くの意見が交わされました。それぞれスポーツ視点から見た、旧むつ市民体育館の課題やむつ市新体育館への具体的な要望などをいただくことができました。

<今後の予定>

第2回	2015年12月12日(土) 13:00~15:00 場所：むつ市立第三田名部小学校体育館 「機型や顔寸で空間を体験しよう」
第3回	2016年2月13日(土) 10:00~12:00 場所：むつ東ささい館 イベントホールB 「新しい体育館を使ってみよう」

<市民ワークショップの目的>

現在、耐震診断の結果から閉鎖となった、むつ市民体育館の代わりとなる「むつ市新体育館」の基本構想・基本計画の策定が行われています。むつ市では、今年度3回に分けて、ワークショップを行い、スポーツ団体を中心いただいた意見をもとに、新しい体育館づくりをしています。

<当日の様子>

今回の第1回ワークショップでは、A・B・Cの3つのグループに分かれていただき、①旧市民体育館の課題や日常的なスポーツの活動状況、②新しい体育館の希望やアイデアの2つの議題について意見を交わしました。ワークショップ終了後は、進行役がグループ内の意見を発表し、会場全体で情報を共有しました。



話し合いで出てきた意見は、4種類の付箋を使い分けてジャンルの別に分類しました。

<第1回 市民ワークショップの意見>

<p>Aグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県大会や全国大会規模の大会等が開催出来る総合施設 ・柔道や剣道、弓道の練習ができる武道場の併設 ・体力や筋力増加を計るトレーニング器具の設置 ・スポーツを通じて、むつ市内を活性化 ・防災や交通面を考慮した配置計画 ・ソーラーシステムの導入 	
<p>Bグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県大会を誘致出来る規模のアリーナ ・足への負担を軽減するクッション性のフロア ・バリアフリー化 ・様々な種目に対応できる照明設備 ・可変式のステージ ・体育館周辺部の整備 	
<p>Cグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランニングコストの低減 ・アリーナと観客席の移動がスムーズとなる動線計画 ・ネット環境や電源設備の整備 ・医務室の設置 ・多くの選手や観客を想定した駐車場の設置 ・避難所にもなり得る防災機能 	

項 目	旧むつ市民体育館の現状	新体育館への要望	
競技別	バドミントン	大会は6回/年、一般大会6面、県大会8面必要 暖房でシャトルが揺れる	面数は最大8面、コート間2m以上、天井高さ12m シャトルの見やすい照明
	綱引き	旧市民体育館では狭く、大畑体育館、むつ中学校体育館を使用 34mの長さが必要、12月に大会あり	50m×15m×2レーン必要
	陸上	冬季の練習に使用、克雪ドームの冬季は予約が取れない	投てき、棒高跳びの練習、並列して走れるランニングコース、筋力トレーニングジム
	バスケットボール	狭く公式大会ができないため、東通村体育館を使用	全国大会開催可能な規模、メインコート4面、サブコート、2000人収容の観覧席、1階フロアにも観覧スペース確保、合宿所、会議室、選手控室、VIPルームが欲しい
	弓道	アリーナに畳を敷いて練習していた	屋内弓道場希望、15間(18m)×12m(6名分)
	グラウンド・ゴルフ	床のテープが邪魔になる	
	フットサル		2面+アップコート
	ハンドボール		団体なし
	卓球		メインアリーナ40台、サブアリーナ3台 観覧席は2階、1階はボールが転がってきて危険 利用頻度が高く動線を簡潔にする
	剣道		木床としたい
ボルダリング		高さ35m程度のクライミングボードが欲しい	
アリーナ	狭い、コート周辺に観覧スペースが取れない ステージの出っ張りがある コートラインを都度書かなければならなかった 大会時手狭である	サブアリーナ 県大会を開催できる規模 ネットで小分けできるように	

項目	旧むつ市民体育館の現状	新体育館への要望
器具庫		アリーナと同フロアとし動線をコンパクトにする メイン・サブの両アリーナにフロア直結の器具庫が欲しい
トレーニングルーム		機器のある健康志向の施設
観覧席	座れるギャラリーがあった、観客は200~300人は来場する	2000席程度 観覧席の上部通路を周回できるランニングコースにする 回遊性のある通路が欲しい サブアリーナに小規模な観覧席 観覧席からコートに直接降りれる動線がほしい 席の下に荷物入れが欲しい
ステージ	大会本部、表彰式等を行うには狭い	舞台、ステージ必要、袖を広くして本部席の設置を考慮 コンセント、LAN環境が欲しい
搬入出	搬入扉が狭くフットサルゴールが通らない	十分な幅、高さの搬入口が欲しい
玄関	下足置場が足りない 外からの砂の持ち込みを防ぐため、段差を設け	十分な広さが欲しい
ロビー	長椅子が二つ、自販機しかない	自販機が欲しい
事務室、会議室等		ガラス越しにアリーナが見えると良い 会議室3室欲しい
来賓室	狭い、動線が悪い、階段のこう配が急	
食堂、ラウンジ		飲食スペース、簡単な食堂が欲しい
シャワールーム、ロッカールーム	狭い、ブースが少ない	ロッカールームが欲しい 広いロッカールームが欲しい
縦動線		エレベーターの設置 スロープ、エレベーターの設置
内装	壁がボールの衝撃で破損する	クッション性のある床材で足への負担を軽減
雪	屋根の雪はある程度溜まらなないと落ちてこない	屋根の積雪対策
防災		防災拠点機能 防災備蓄倉庫の設置 災害対応で50名程度の宿泊機能付きとし、平時は合宿に利用する
採光、遮光、照明	手動の遮光カーテンで対応していたが故障が多い、日中も照明を点灯していた	種目により照明を変えられると良い 遮光は重要、光が競技の邪魔になる LED照明の設置 暗幕のサイズを今の半分にして欲しい
衛生設備	冬でもお湯が出ない	温泉利用 2階にもトイレを設置 自由に使える流しが必要 全て洋式、洗浄便座としたい シャワーに温水を出して欲しい
空調	暖房の効が悪い、ジェットボイラーを持ちこんでいた、窓が多いと冬場寒い	
運営	夜間の利用率は高く予約が取れない	市雪ドームとの連携 夜間に建物外周を利用したい 他の施設と駐車場を共用 ランニングコストの掛からない機能重視にして欲しい
多目的利用	コンサート、書初め	物産館などの商業機能を併設した複合型とすれば人が集まるのではないかと(例:宮城県石巻市役所)
駐車場	狭い、暗い 駐車場不足	十分な広さの駐車場 十分な広さの駐車場、体育館と近づける
立地		交通アクセスの良い場所 市内の駅に近い場所が良い
その他		ソーラーシステム導入 冬の早朝のウォーキングスペース 近くにコンビニがあると便利

(2) 市民への意向調査における課題と要望の整理

市民への意向調査結果より、市民が課題と感じている部分を大きく、以下の7項目に分類します。

1. メインアリーナの面積不足
2. 公式大会の開催ができない
3. 観覧スペースの不足
4. 駐車場の不足
5. 附帯設備の不足、低機能
6. 設備の老朽化、不足、低機能
7. 安全性、非バリアフリー

これらの課題に対し、新体育館建設に向けての市民要望は、

1. むつ市にふさわしい、気軽に利用できる、市民のための体育館
2. 公式大会、プロスポーツ誘致可能なメインアリーナ、サブアリーナの整備
3. メインアリーナに見合う十分な観覧席の整備
4. 日常利用にも大会時にも対応できる十分な駐車場の確保
5. 日常利用と大会利用に対応できる附帯施設・設備の充実
6. バリアフリーによる誰もが利用しやすい体育館
7. 災害時にも避難施設として利用できる防災機能を有した体育館
8. スポーツ以外にも多目的に利用できる体育館
9. ランニングコストを抑えた維持管理のしやすい体育館

の9項目に整理できます。

これとは別に、立地に対する要望は

1. 既存のスポーツ施設との連携がしやすい立地
2. アクセスしやすく、十分な駐車場が確保できる立地
3. 市内各地域からでもアクセスしやすい市中心部への立地
4. 災害時にも拠点となりうる立地

の4項目に整理できますが、建設場所については、市民からのご意見で「運動公園隣接地」と「ウェルネスパーク隣接地」の2つの候補地が挙がっています。

(3) むつ市屋内体育施設に関する関連計画との整合性の確認

① 市の関連計画との整合性

新体育館建設に対する市民要望は、以下に示す市が策定した関連計画との整合性が図られています。

「むつ市長期総合計画後期基本計画」

スポーツ・レクリエーション活動の充実

「むつ市スポーツ推進計画」

【基本目標】

- (1) 年代や生活環境にあわせた運動やスポーツ機会の充実
- (2) 市民が主体的に取り組める地域スポーツ環境の整備
- (3) ジュニアや若い世代の競技者の支援
- (4) スポーツ交流を通じた地域の活性化の促進

【重点プロジェクト】

- (1) ライフステージ別プログラムの開発と普及
- (2) 多様なスポーツ情報の管理、提供
- (3) トップアスリート等によるスポーツ教室の開催
- (4) 計画的な公共スポーツ施設等の整備、充実
- (5) スポーツコミッションの取組

「むつ市スポーツ施設整備計画」

【整備方針】

1. 安心してスポーツができる施設の整備
2. 中長期的展望にたった施設の整備
3. 利用者ニーズに沿った施設利用

【整備計画】

- 既存施設の充実と活用促進
- 市民総合体育館の整備
- 利用者ニーズに沿った利用運営

② 建設地

一方、立地についての市民要望であります、「既存スポーツ施設のむつ運動公園やウェルネスパークとの連携による効率的な施設運用」は、むつ市スポーツ施設整備計画の整備計画「既存施設の充実と活用促進」「利用者ニーズに沿った利用運営」とも整合性が図られていますが、別途、「むつ市都市計画マスタープラン」との整合性を確認する必要があります。

(4) むつ市都市計画マスタープラン等との整合性の確認

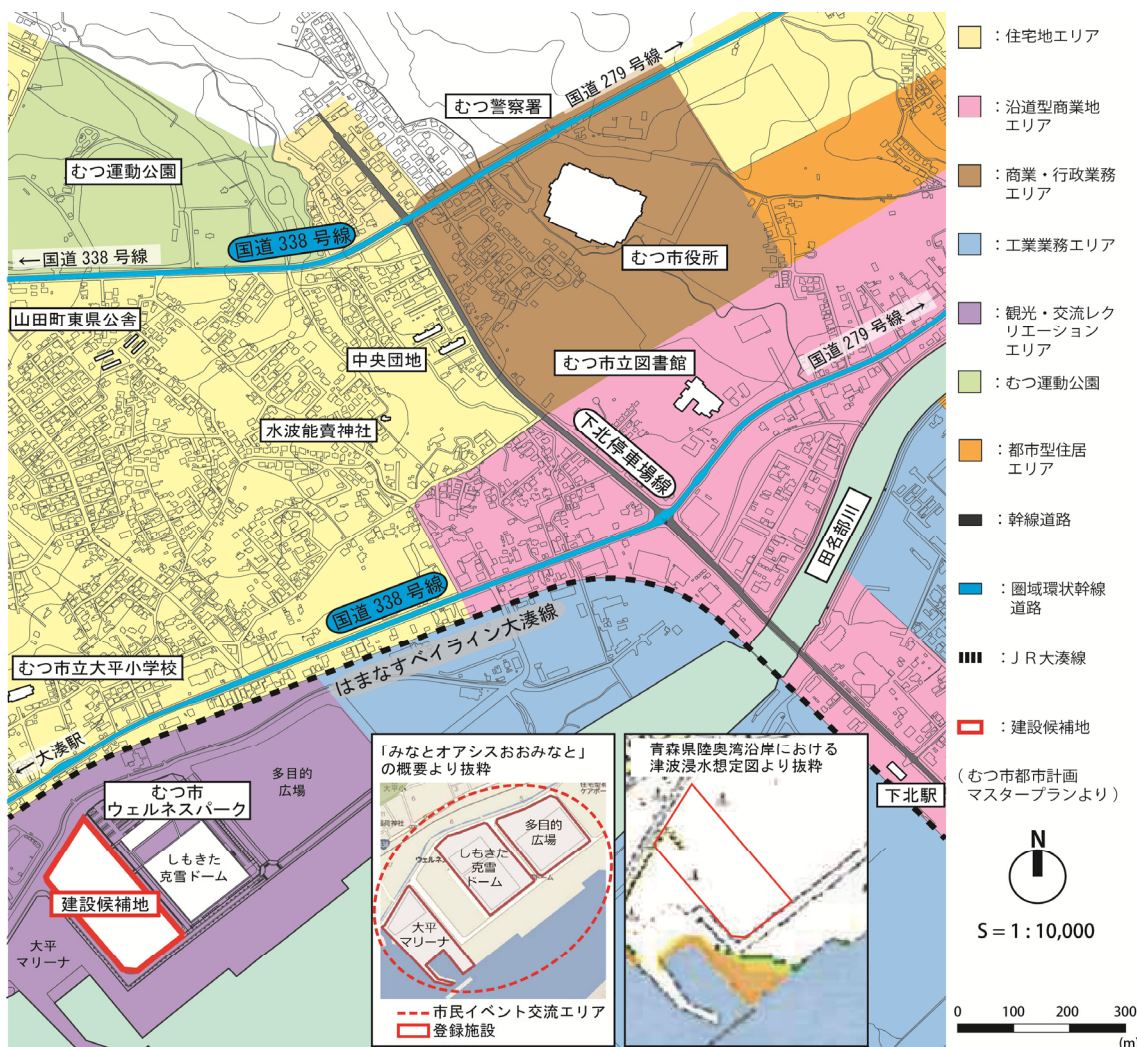
市民要望として、挙がっている「運動公園隣接地」と「ウェルネスパーク隣接地」については、「むつ市都市計画マスタープラン」において、次の通り定められています。

むつ運動公園の近隣は、運動公園エリアと住宅地エリアになっています。新たに新体育館を建設できる用地は、運動公園内には確保できないため運動公園北側に限られますが、一部用途地域無指定となり、市街地の拡大抑制方針との整合が図れないため、建設は難しいと言わざるを得ません。

一方、ウェルネスパーク隣接地は、「むつ市都市計画マスタープラン」で「観光・交流レクリエーションエリア」に、「みなとオアシスおおみなと」で「市民イベント交流エリア」に指定され、市民要望の「イベントやコンサートなどの多目的利用」や、関連計画の「スポーツ交流を通じた地域の活性化の促進」に適したエリアと言えます。

なお、青森県陸奥湾沿岸における津波浸水想定図（平成27年3月）より、ウェルネスパーク隣接地は浸水域から外れています。

以上のことにより、都市計画方針においては、ウェルネスパーク西側隣接地が建設候補地として適当と言えます。



加えて、都市計画方針以外にも多面的な評価が必要と考え、全市的な利用及び域外からの利用を想定して、むつ運動公園隣接地、ウェルネスパーク西側隣接地を含めた全7ヶ所の候補地を選定し、次の項目について総合的に検討を行い、ウェルネスパーク西側隣接地を最適地と判断しました。

<建設地の検討項目>

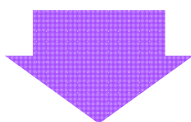
【一次評価】

- ・都市計画 → むつ市都市計画マスタープラン等との整合性
- ・法的規制 → 用途地域・都市計画の変更、建築基準法
- ・アクセス性 → 最寄りの幹線道路とのアクセス性
- ・駐車台数 → 駐車場面積の確保、周辺駐車場の連携性の有無

【二次評価】

- ・用地取得 → 容易性
- ・経済性（敷地）→ 間口・奥行き、敷地・道路整備の必要性、埋蔵文化財包蔵区の有無
- ・アクセス性 → 自動車でのアクセス性、公共交通機関でのアクセス性
- ・耐災害性 → 避難所指定、洪水・地滑り・津波ハザードマップとの整合性
- ・経済性（建物）→ 地盤の良さ、上下水整備の必要性、雨水排水処理施設の必要性、電気・通信引込の容易性、将来の拡張性
- ・連携性 → 他の公共施設との位置関係、拠点機能性、周辺地域の活性化
- ・環境 → 周辺環境や屋外空間の快適性
- ・防災拠点 → 防災拠点施設としての可能性

建設候補地について、一次評価及び、二次評価
により、総合的に判断した結果



むつ市ウェルネスパークの西側隣接地において
整備することが最適であると考えます

【主な理由】

- ・ むつ市都市計画マスタープラン等との整合性が図られていること
- ・ 用地取得のしやすさ、敷地に対する法的制限の少なさから、事業スケジュールを見通しやすいこと
- ・ 敷地の形状から、過大な造成が不要であり、新たな道路整備が不要なため、事業費の抑制が可能であること
- ・ 十分な駐車場の確保、幹線道路からのアクセス性など、市民の利用のしやすさ
- ・ 周辺環境にも恵まれ、隣接するウェルネスパークとの連携によるスポーツの拠点機能に留まらず、イベントや催事など、多機能な展開の可能性を持つ場所であること

II 新体育館建設の基本的な考え方

1. スポーツスクエアの形成と新体育館の基本テーマ

(1) スポーツスクエアの形成

建設地の特性を活かし、新体育館を単体の体育施設として完結するのではなく、隣接するウェルネスパークや防災緑地、太平マリーナを含めたエリア全体を市民に愛される街区（スクエア）として、市民がスポーツ・レクリエーションに親しみ、健康で豊かな生活を実現する「スポーツスクエア」と位置づけます。

(2) スポーツスクエアにおける新体育館の基本テーマ

スポーツスクエアにおける新体育館の基本テーマを以下のように設定します。この基本テーマは、スポーツスクエアにも共通するテーマでもあります。

誰もが気軽に利用でき、スポーツと健康づくりを楽しみ、スポーツを通じて交流と文化を育む、にぎわいの拠点となる新体育館（スポーツスクエア）

誰もが 子どもから高齢者、障がい者、性別を問わず、一人で、仲間（グループ）で、家族でと、幅広い世代が、各々のライフスタイルに合わせて気軽に利用でき、安全安心で誰もが使いやすく、快適で、市民一人ひとりが主役となり、様々な形でスポーツと出会い、ふれあえる市民のための体育館とします。

スポーツと健康づくり トップアスリートを目指す競技志向から、健康づくりやレクリエーションとしてレジャー的な楽しみ方まで、多様なスポーツメニューにより、日頃スポーツに親しみのない市民にも、スポーツにふれあう機会を提供し、スポーツ人口の拡大を図り、スポーツと健康づくりの拠点となる体育館とします。

交流と文化を育む 「する」「観る」「支える（育てる）」スポーツの実践は、人と人、人とスポーツ、スポーツと街のように、様々な交流の創出や、トップアスリートの育成やプロスポーツの誘致など、一流の選手に直接ふれあう機会を増やし、文化としてのスポーツが根ざす契機となる体育館とします。

にぎわいの拠点 陸奥湾、釜臥山、しもきた克雪ドームが創り出す、むつ市を象徴する景観を持つ、「観光・交流レクリエーションエリア」での立地特性を活かし、スポーツを通じた地域コミュニティ形成にとどまらず、イベントやレクリエーションなどの利用で、新たな文化交流拠点となる体育館とします。

2. 新体育館の基本整備方針

基本テーマを踏まえ、新体育館の基本整備方針を以下のように考えます。

■1 「する」「観る」「支える（育てる）」体育館 ～スポーツ推進拠点～

整備方針1 「する」スポーツに対応した施設

- ・様々な年代や生活スタイルにあわせた機能の整備
- ・レクリエーションから公式大会開催可能な幅広く利用できる高機能な体育館
- ・トップアスリートを目指す人にも対応できる機能の整備

整備方針2 「観る」スポーツに対応した施設

- ・プロスポーツ誘致にも対応できる空間の整備
- ・スポーツ観戦を誰もが楽しめる観覧席の整備
- ・スポーツイベントなどの開催に対応できる施設整備
- ・十分な駐車台数の確保
- ・バスが出入り可能な駐車場整備

整備方針3 「支える（育てる）」スポーツに対応した施設

- ・冬季にもスポーツの継続に配慮した施設整備
- ・講習、公演などの開催可能な施設整備
- ・スポーツコミッション*の取組みと連携が図れる施設整備
- ・スポーツに関連する情報の収集・発信が可能な施設整備

※1 スポーツコミッション：「スポーツ」をまちづくりや地域の活性化のひとつの手段として捉え、スポーツの有する多様な機能を活用したまちづくりや地域の活性化。

※2 『スポーツコミッション』は一般財団法人 日本スポーツコミッションの登録商標です。

■2 地域に根差し、地域・文化交流を促す体育館 ～地域・文化交流拠点～

整備方針4 スポーツを通じて交流を生み出す施設

- ・様々な利用者、団体が自然に交流し、情報発信、情報交換できる場の提供
- ・スポーツとの出会いをつくるイベント開催、情報発信の場の提供
- ・健康づくりなど身近なスポーツに対応できる施設

整備方針5 誰もが利用しやすい、親しみのもてる施設

- ・子どもから高齢者まで利用しやすい施設
- ・障がい者の方にも利用しやすい施設
- ・女性の利用者にも配慮した施設
- ・家族、乳幼児連れの方にも利用しやすい施設
- ・バリアフリー、ユニバーサルデザイン**に配慮した施設

※ ユニバーサルデザイン：老若男女、障がい者等問わず、利用可能であるような建物、空間のデザイン。

■ 3 地域資源を活かし、多目的に利用できる体育館 ～にぎわいの拠点～

整備方針6 ウェルネスパークとの連携と共存共栄

- ・両施設の連携による無駄のない公共施設マネジメントの実現
- ・管理の一体化によるランニングコストの縮減

整備方針7 自然環境に配慮した体育館

- ・陸奥湾、釜臥山、しもきた克雪ドームと調和した新たな景観形成
- ・市民が自慢できる、にぎわいの拠点にふさわしい外観デザイン
- ・むつ市の気候風土（雪、季節風、寒さ）に配慮した施設
- ・自然エネルギーを活用した環境負荷抑制

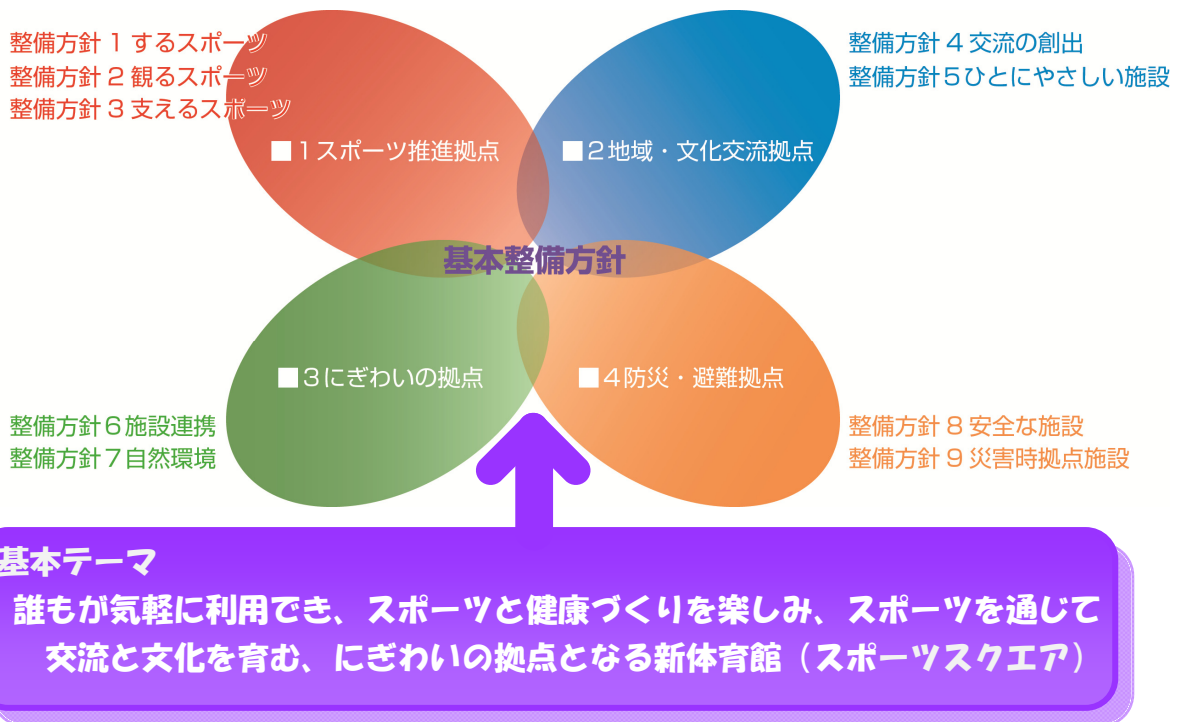
■ 4 安全・安心な体育館 ～防災・避難拠点～

整備方針8 安全にスポーツを楽しめる施設

- ・壁や床の材質や機能に配慮した施設
- ・怪我や事故の未然防止に配慮した施設

整備方針9 災害時の防災拠点に転用できる施設

- ・十分な耐震性を有し災害に強い施設
- ・災害時の災害復旧拠点となる施設
- ・災害時のインフラ途絶に配慮した施設
- ・災害時の機能維持に配慮した施設
- ・市内防災施設との機能連携を図れる施設
- ・むつ市国土強靱化地域計画と整合の図れる施設

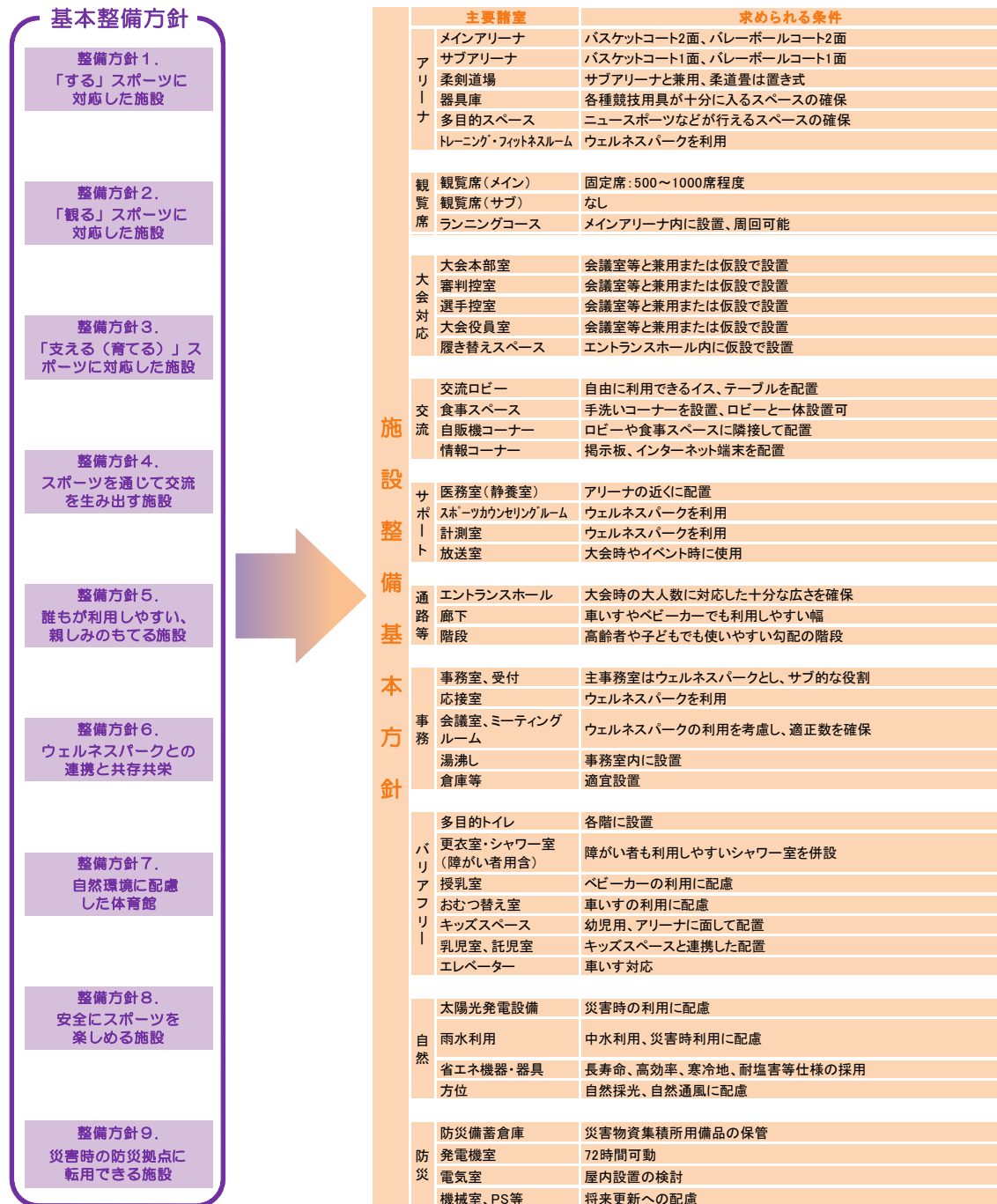


基本テーマイメージ図

3. 新体育館の主要諸室

(1) 施設整備基本方針

新体育館の基本整備方針及び、ウェルネスパークとの機能連携を踏まえ、施設整備基本方針を定め、主要な諸室と求められる条件を整理します。なお、主要な諸室は最大値とし、設計の過程で変更となる可能性があります。



(2) 施設整備基本方針の検討事項

9つの基本整備方針をより具体的に施設整備基本方針に反映させるための検討事項を整理します。

整備方針1 「する」スポーツに対応した施設への検討事項

- ・競技スポーツ、レクリエーションスポーツに加え、リハビリテーションスポーツ[※]も支援できる施設整備
- ・全国大会や国際試合などでも利用できる公式コートを基準としたコートレイアウト
- ・サブアリーナの小規模公式大会開催、ウォームアップ用コートとしての利用
- ・公式大会開催時の関係者諸室、選手諸室及び、関係者・選手駐車場の整備

※ 社会参加を目的とした障がい者スポーツの一つで、機能回復訓練の一環として行われる医療的スポーツ

整備方針2 「観る」スポーツに対応した施設への検討事項

- ・プロスポーツや公式大会に対応できる観覧席スペースの確保
- ・観覧席の高齢者や障がい者の利用への配慮
- ・大規模な公式大会やスポーツイベントへの対応
- ・大会開催時の役員、選手、観戦者の動線や入口の分離と関係諸室の確保
- ・役員、選手、観戦者に配慮した十分な駐車場の確保

整備方針3 「支える（育てる）」スポーツに対応した施設への検討事項

- ・冬季や雨天でも日常的なトレーニングの継続を支えるランニングコースの整備
- ・スポーツ情報のセンター的役割を担うスペースの確保
- ・情報提供、広報活動、市民利用スペースの整備

整備方針4 スポーツを通じて交流を生み出す施設への検討事項

- ・利用者が自由に利用できる交流スペースやラウンジスペースの設置
- ・各団体が広報、勧誘等に自由に利用できる広報掲示スペースの設置
- ・ニュースポーツや、スポーツプログラムに対応したスペースの確保（新たなスポーツ人口の獲得）

整備方針5 誰もが利用しやすい、親しみのもてる施設への検討事項

- ・子ども達や高齢者でも安全に利用できる施設づくり
- ・車いす対応型エレベーターの設置
- ・バリアフリー化、引戸、オストメイト対応トイレの設置など障がい者への配慮
- ・トイレや更衣室、シャワールームなどのパウダーコーナー等、女性への配慮
- ・授乳室、おむつ替え室やキッズコーナー等、子ども同伴の利用者に配慮
- ・バリアフリー新法（建築物移動等円滑化整備基準）への準拠

整備方針6 ウェルネスパークとの連携と共存共栄への検討事項

- ・ ウェルネスパークの施設連携や、スポーツプログラムの共有化
- ・ 施設間の往来に配慮した配置計画
- ・ 一体管理等のマネジメントのしやすさ

整備方針7 自然環境に配慮した施設計画と景観形成への検討事項

- ・ むつ市の自然のシンボルである、陸奥湾と釜臥山の借景、隣接するしもきた克雪ドームとの形状・色彩の調和を図りつつ、スポーツ推進の中核施設にふさわしい外観計画
- ・ むつ市の気候風土に配慮した自然通風、自然採光、建築・空調計画
- ・ 冬季の落雪・除雪・堆雪処理に配慮した配置、建築計画
- ・ 太陽光発電設備の供給先、災害時の予備電源としての利用
- ・ 雨水利用（植栽への散水、トイレの中水等）
- ・ 環境負荷を低減する建材（ペアガラス等）や機器（LED照明等）を積極的な採用によるランニングコストの縮減

整備方針8 安全にスポーツを楽しめる施設への検討事項

- ・ アリーナの床の性能（衝撃吸収性、適度な滑り抵抗、反発力など）と床材の選定
- ・ アリーナの壁の性能（衝突時のクッション性、音響など）と壁材の選定
- ・ 文字の大きさや色に配慮し、子ども達や高齢者でも分かりやすいサイン計画

整備方針9 災害時の防災拠点に転用できる施設への検討事項

- ・ 災害時の救援物資二次集積所、救護所、指揮機能集中拠点として機能できる施設（むつ市国土強靱化地域計画との整合）
- ・ 十分な耐震性
- ・ 自家発電設備は72時間連続運転可能な備蓄燃料の確保
- ・ 災害時のウェルネスパーク（津波避難除く指定避難所）との機能連携

4. まとめ

新体育館建設基本構想策定にあたっては、専門的かつ総合的に検討するため、むつ市のスポーツ振興に尽力していただいている各競技団体代表の方々との懇話会を開催し、ご意見をいただきました。

また、ワークショップでの各競技団体の方々からの貴重なご意見をはじめ、各種競技団体や市民アンケート調査の実施により、多数のご意見・ご要望をいただきました。

寄せられたご意見・ご要望を踏まえ、アリーナ・観客席の面積拡充、附帯設備の充実、バリアフリー化など、市民利用ニーズに対応する規模の確保や、人にやさしい施設、災害拠点となる施設として、

基本テーマである、

**誰もが気軽に利用でき、スポーツと健康づくりを楽しみ、スポーツを通じて
交流と文化を育む、にぎわいの拠点となる新体育館（スポーツスクエア）**

の実現を目指し、今後の基本計画に反映させていきます。

また、アリーナや付帯施設の整備、トイレの充実、大会時対応（観客・選手動線等）、防災拠点施設機能に対する具体的な意見・要望につきましては、今後の設計段階で参考とさせていただき、子どもから高齢者まで誰もが利用しやすい施設を目指します。

さらに、むつ市民のみならず、隣接町村など市外の方々を含めた多くの利用が望まれるところであり、下北圏域定住自立圏における、中心市として、圏域全体の活性化に寄与するためにも、施設の利用を想定した、ふさわしいネーミングについて検討していきます。

基本計画

Ⅲ 建設地の概要

1. 建設地の現状

建設地は、南を陸奥湾に面し、北西には釜臥山を望む自然豊かな場所にあり、むつ市都市計画マスタープランにおいて観光・交流レクリエーションエリアに指定されています。間口約134m、奥行き約238～286mの台形の形状をしており、南西端から北東端に向かい、緩やかに傾斜した平坦地です。南、西、北側の3方を幅員約20mの臨港道路に囲まれ、東側に既存のウェルネスパークが隣接しています。



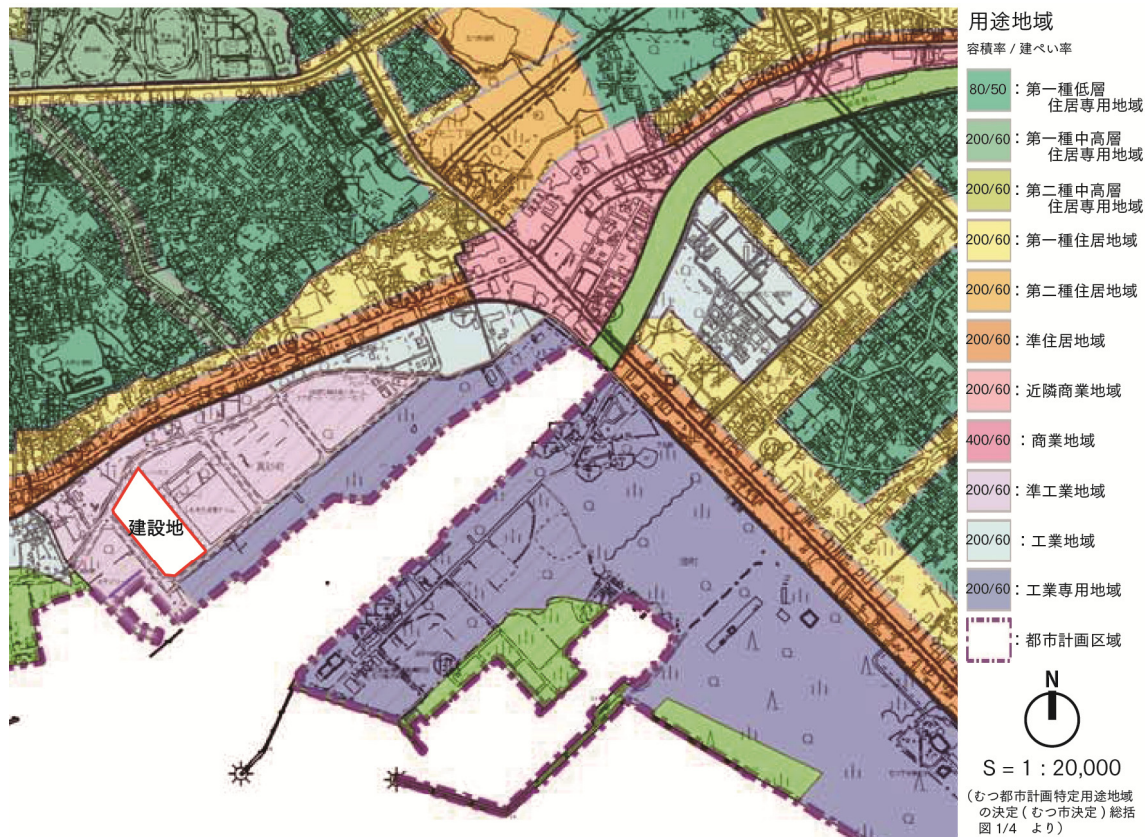
平成27年11月現在

2. 建設地の法的条件等

建設地は、都市計画区域内の準工業地域（容積率200%、建ぺい率60%）に指定されています。公共下水道区域内ですが、下水道は整備されておらず、隣接するウェルネスパークも浄化槽にて処理を行っています。敷地内の雨水排水は、北側水路への排水となるため、青森県との協議が必要となります。

青森県陸奥湾沿岸における津波浸水想定図（平成27年3月）にあるように、建設地は浸水域から外れています。

【建設地周辺都市計画図】



【関係法令チェックリスト】 ※印 : 全て該当法。特に本計画において注意すべき事項を記載。

関係法令チェックリスト	担当課	特に配慮すべき事項 ※
1. 集団規定・単体規定		
① 都市計画法関連		
・青森県都市計画法施行条例	都市政策課(市)	なし
・開発行為(むつ市開発行為許可事務要綱)	都市政策課(市)	必要
・むつ市における土地利用の適正化に関する条例	企画調整課(市)	なし
・むつ市公害防止条例、むつ市公害防止条例施行規則	環境政策課(市)	なし
・むつ市文化財保護条例、青森県文化財保護条例	生涯学習課(市)	保存遺跡なし
② 建築基準法		
・青森県建築基準法施行条例	建築指導課(県)	なし
・青森県建築基準法施行条例	建築指導課(県)	用途・興業場
・バリアフリー新法、青森県福祉のまちづくり条例	建築指導課(県)	なし
・高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準(劇場、競技場等の客席・観覧席を有する施設に関する追補版)	建築指導課(県)	興業場として検討
③ 駐車場法	都市政策課(市)	専用利用
④ 消防法・危険物法・火災予防条例		
・防火対象物(項)の判定	大湊消防署(市)	興業場として検討
⑤ 興行場法		
・青森県興行場条例	建築指導課(県)	興業場として検討
⑥ エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)	建築指導課(県)	なし
3. その他		
・土壌汚染対策法、青森県土壌汚染対策法関係手数料徴収条例	下北地域県民局地域連携部むつ環境管理事務所(県)	自然由来の砒素なし
・青森県屋外広告物条例	都市政策課(市)	なし
・青森県景観条例(大規模行為届出制度)	都市政策課(市)	なし
・青森県公害防止条例	環境保全課(県)	なし
4. 電気設備、機械設備に係る関係法令		
水質汚濁防止法 その他条例	処理水の放流先管理者	なし

IV 施設・構造・設備計画

1. 基本施設計画

(1) 基本施設計画における部門面積と想定仕様

施設整備基本方針を受け、主要諸室と部門面積の整理を行います。

①面積表

部門	面積 (㎡)	備考
②アリーナ部門	約 4,000 ㎡	内救援物資集積所※：約 1,300 ㎡
③共用・サービス部門	約 1,500 ㎡	内救護所※：約 200 ㎡
④管理部門	約 500 ㎡	事務室、会議室等を指揮機能集中拠点※に転用
⑤防災関連部門	約 500 ㎡	
合計	約 6,500 ㎡	

※むつ市国土強靱化地域計画における新体育館の防災機能

②アリーナ部門

アリーナ部門	仕様等
メインアリーナ	<p>【形状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール2面、バレーボール(6人制)2面、バレーボール(9人制)2面、バドミントン10面、テニス2面、卓球12台、フットサル1面 ・天井高さ：梁下 12.5m以上 <p>【床】木質またはスポーツフロアとし、コンサートやイベントを想定した耐荷重</p> <p>【壁】ボールが当たっても破損しないよう、丈夫なものとし、かつ、人が衝突しても怪我のないよう、弾力性のある素材</p> <p>【設備】公式大会に対応できる設備</p> <p>【その他】可動式ステージ</p>
ランニングコース(メインアリーナと併設)	<p>【形状】幅員1.8m以上とし、周回できる形状</p> <p>【床】ランニングに適したクッション性のある材料</p>
サブアリーナ(柔剣道場兼用)	<p>【形状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール1面、バレーボール(6人制)1面、バレーボール(9人制)1面、バドミントン4面、卓球6台 ・柔道場2面、剣道場2面、フェンシング4面 ・天井高さ：梁下 7.0m以上 <p>【床】木質床、置き式畳</p> <p>【壁】メインアリーナ同等</p>
器具庫	<ul style="list-style-type: none"> ・アリーナに直接面し、大型の器具が収納できる大開口とする。外部からの搬入出に配慮

メインアリーナ 2階観覧席	<ul style="list-style-type: none"> ・固定席とし、500～1000席程度（一部車椅子席）確保 ・最上段の横通路はランニングコースと兼用
トレーニングジム フィットネススタジオ	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルネスパークを利用
多目的スペース (用具庫含)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルネスパークの利用を考慮し、適正数の確保

※観覧席の通路幅員は高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準（劇場、競技場等の客席・観覧席を有する施設に関する追補版）及び、興業場法に準ずること。

③共用・サービス部門

共用・サービス部門	仕様等
共用（通路等）	
エントランスホール ロビー等	<ul style="list-style-type: none"> ・受付、階段、エレベーターなど、利用者が使いやすいように配慮 ・外の様子が見え、明るく開放的な雰囲気 ・情報コーナーや軽飲食コーナーの併設 ・履き替え用下足ロッカーコーナーに隣接 ・大会時に人が集まれる十分なスペースの確保
風除室	<ul style="list-style-type: none"> ・同時開閉しないよう十分な奥行きを確保 ・自動ドア
エレベーター	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい位置に配置 ・車いす対応
情報コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンや掲示板など情報媒体の設置 ・エントランスホール等と兼用可
軽飲食コーナー、 自販機コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に利用できるテーブル、イスの配置 ・自販機は隣接して配置 ・手洗い設備の設置
下足ロッカーコーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・100～200足分のスペースの確保
廊下、階段等	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすでもすれ違える幅員の確保 ・大会時など、大人数の移動に配慮 ・バリアフリー対応（手摺の設置）
サービス	
キッズルーム、託児室	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児や幼児のための設え ・お互いに隣接配置が望ましい ・アリーナから見える配置が望ましい
授乳室	<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーベッド、流しを設置 ・同時に2名利用できるスペースが望ましい ・ベビーカーのまま入室できる出入口幅、スペースの確保

おむつ替え室	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドを設置 ・車いすと介助者が入れる広さの確保
多目的トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・便房数は観覧席数に合わせ算定 ・各階に設置し、1箇所はオストメイト付き
スポーツカウンセ リングルーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルネスパークを利用
体力計測室	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルネスパークを利用
ロッカールーム（男女）	<ul style="list-style-type: none"> ・男女別に設け、シャワー室の併設 ・女性用は室内に洗面、パウダーコーナーの設置
シャワールーム（男女）	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカールーム内に設置 ・給湯設備の設置
障がい者用ロッカールーム、シャワールーム（男女兼用）	<ul style="list-style-type: none"> ・脱衣コーナーの設置 ・車いす利用者の利用に配慮 ・介助者の帯同に配慮
トイレ（男女）	<ul style="list-style-type: none"> ・各階に設け、2階は大会時に合わせた便房数の検討
サービス（会議・研修）	※大会関係諸室は会議・研修諸室等と兼用
会議室兼研修室	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルネスパークの利用を考慮し、適正数の確保
放送室	<ul style="list-style-type: none"> ・メインアリーナに面し、アリーナの様子を確認できる配置
大会本部室	<ul style="list-style-type: none"> ・メインアリーナに面し、アリーナの様子を確認できる配置
大会役員室	<ul style="list-style-type: none"> ・大会本部室に隣接して配置
審判控室	<ul style="list-style-type: none"> ・メインアリーナに面し、選手控室と隣接しないよう配置 ・選手と別の専用トイレを設置（室内または隣接して）
選手控室	<ul style="list-style-type: none"> ・メインアリーナに設置 ・防音仕様
選手ラウンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・選手同士の交流や試合観戦用スペースの設置 ・ドリンク作成用流しの設置 ・日常は一般ラウンジ（食事スペース）として利用
選手用トイレ（男女）	<ul style="list-style-type: none"> ・選手専用とする。普段は職員用として利用

④管理部門

管理諸室	仕様等
事務室	<ul style="list-style-type: none"> ・受付カウンター設置、エントランスに面して配置 ・外の様子が見える位置に配置 ・給湯コーナーの設置

応接室	・ ウェルネスパークを利用
職員更衣室（男女）	・ ウェルネスパークを利用
職員出入口、下足入れ	・ 職員用として別途設け、履き替えスペースと下足ロッカーの配置
医務室	・ アリーナに近い位置が望ましい ・ 静養、処置を行う。処置ベッド1台、流し、器材棚設置
職員用トイレ	・ 職員数に合わせ適宜確保
供給	
倉庫等	・ 適宜確保
清掃具倉庫	・ ウェルネスパークの利用を考慮し、適正数の確保
職員控室（男女） 清掃員控室	・ ウェルネスパークを利用
機械室、PS、EPS等	・ メンテナンス、将来の機器更新等に配慮 ・ 競技に影響しないよう防音に配慮

⑤防災関連部門

防災関連	仕様等
防災備蓄倉庫	・ 救援物資集積所に必要な備品の収納
自家発電機室	・ 72時間（3日分）稼動可能な能力 ・ 屋内設置
太陽光発電設備	・ 屋根面に設置 ・ 発電量を掲示するディスプレイの設置（見える化） ・ 災害時に利用可能なシステム

⑥その他

その他	仕様等
駐車場	・ 300台程度確保 ・ 大型バス、身障者用駐車場を適宜確保 ・ 周辺の空地の適宜利用
駐輪場（屋根付き）	・ ウェルネスパークと同程度確保

(2) 配置基本計画の機能構成

配置基本計画における、機能構成についての配慮事項を整理します。

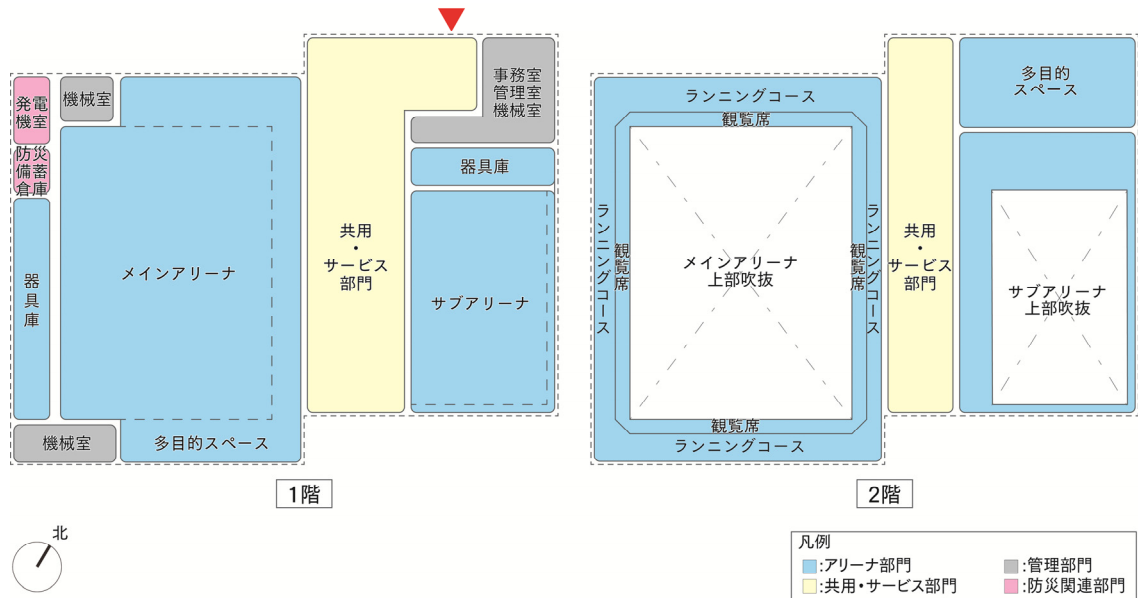


※本事業で将来計画部分の用地取得を行い、新体育館建設後に武道場等の整備について検討予定

- ・建物入口はウェルネスパーク（センターハウス）に合わせ北側に設け、隣接するウェルネスパークと連携の図りやすい配置とします。
- ・センターハウスと新体育館管理部門を外部渡り廊下で接続し、利用者が往来しやすく、機能連携しやすい計画とします。
- ・駐車場は敷地北側に配置し、ウェルネスパークの駐車場と一体的に利用しやすい配置とする他、イベント時の利用として、西側に仮設駐車場スペースを確保します。
- ・イベント広場は、新体育館としもきた克雪ドームの両方から利用しやすい南側に配置し、南側道路に開いて計画します。
- ・イベント広場は、休憩施設やストリートスポーツコート（バスケットボールコート等）を配置し、スポーツと憩いの場として、日常的に利用できる計画とします。
- ・冬季の屋根からの落雪帯を設け、イベント広場を堆雪帯として利用できるよう、新体育館の東西に除雪ルートを確認します。
- ・外周に植栽帯を配し、街区の緑化との連続性や周辺環境との調和を図ります。

(3) 施設基本計画の機能構成と部門配置

施設基本計画における、機能構成と部門配置についての配慮事項を整理します。



■ 1階

- ・事務室、受付などの管理部門と、エントランスホールや更衣室、会議室などの共用・サービス部門、アリーナや多目的スペースなどのアリーナ部門で構成します。
- ・受付やエレベーター、階段などは利用者から分かりやすい配置とします。
- ・メインアリーナとサブアリーナへの動線は分かりやすく、効率的に配置します。

■ 2階

- ・観覧席、多目的スペース、トイレなどの共用・サービス部門で構成します。
- ・メインアリーナ観覧席の背面は周回できるランニングコースとします。
- ・大会時など大人数が利用することを想定した動線、諸室配置とします。

■ その他

- ・通風、採光に配慮した部門配置とします。
- ・イベント時の対応、災害時の対応に配慮した部門配置とします。

(4) 想定競技種目の選定

旧市民体育館での競技種目に加え、ヒアリングやワークショップ（WS）で頂いたご意見を元に、新体育館の想定競技種目を選定します。

しもきた克雪ドームの競技可能種目のうち、フットサルやバドミントン、ソフトバレー、テニスは重複させることで、市民利用の選択機会の増加を図ります。また、障がい者向け競技にも対応できるようにします。

分類	新体育館	過去の実績	ヒアリング、WSでの意見 (屋内競技のみ)	しもきた克雪ドーム
1. ボールゲーム	バスケットボール	バスケットボール	フットサル	フットサル
	ミニバスケットボール	ミニバスケットボール	ハンドボール	サッカー
	バレーボール(6人制)	バレーボール(6人制)		軟式野球
	バレーボール(9人制)	バレーボール(9人制)		ゲートボール
	テニス	テニス		テニス
	ソフトテニス	ソフトテニス		ソフトテニス
	バドミントン	バドミントン		バドミントン
	卓球			
	フットサル			
2. 武道・格闘技	柔道	柔道	フェンシング	フェンシング
	剣道	剣道	弓道	
	フェンシング			
	弓道			
3. ニュースポーツ	ニュースポーツ		ニュースポーツ	インディアカ
	ソフトバレー		綱引き	ソフトバレー
	綱引き		グラウンド・ゴルフ	
4. 健康づくり	ランニング・ウォーキング		ランニング・ウォーキング	ランニング・ウォーキング
			マシジム	マシジム
				スタジオ
				スポーツカウンセリング
5. その他	運動会、スポーツ教室		ペタンク（屋外競技）	運動会、スポーツ教室
6. 障がい者スポーツ	ポッチャ ^{※1}			
	スポーツの集い ^{※2}			
	サウンドテーブルテニス ^{※3}			
	車いすバスケットボール			
	卓球（障がい者部門）			

※1 ポッチャ：ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競う競技

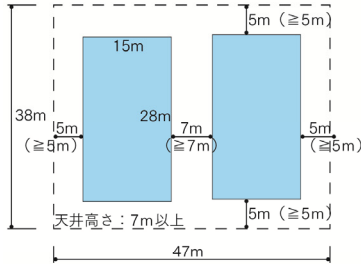
※2 スポーツの集い：重度障がい者の方のための競技会

※3 サウンドテーブルテニス：視覚障がいのある人にとっては空間でボールを捕らえることが十分にはできないため、一般に行われている卓球と異なり、台上でボールを転がしネットの下を通して打ち合う競技

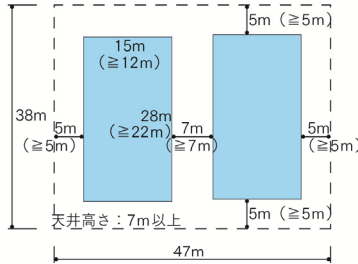
(5) アリーナの規模算定

【メインアリーナ】

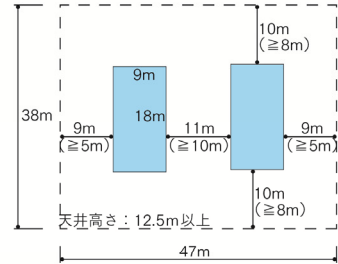
公式大会の主会場やスポーツ観戦の会場として利用できるよう、各競技の公式コート
の面数と配置から、38m×47m×梁下高さ12.5m以上とします。



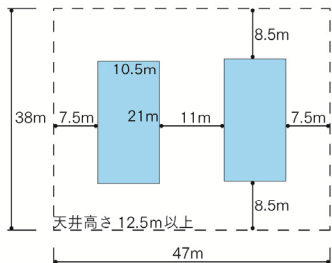
■バスケットボール（2面）国内公式規格
※1



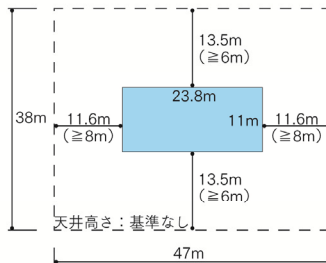
■ミニバスケットボール（2面）国内公式規格



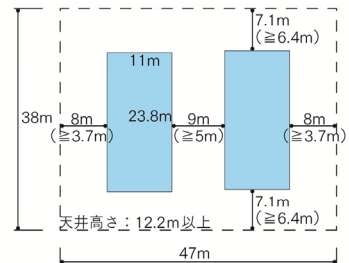
■バレーボール（6人制）（2面）国内公式規格



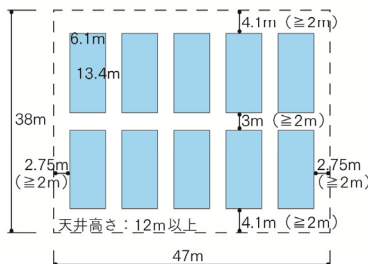
■バレーボール（9人制）（2面）国内公式規格



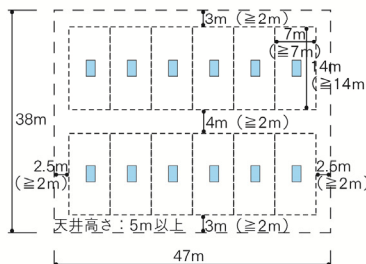
■ソフトテニス（1面）国内公式規格



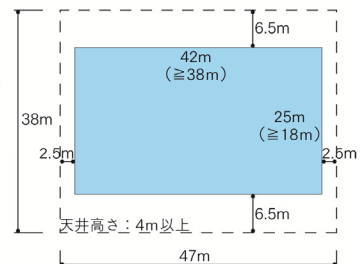
■テニス（2面）国内公式規格



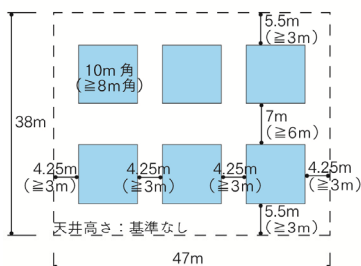
■バドミントン：ダブルス（10面）国内公式規格
※2



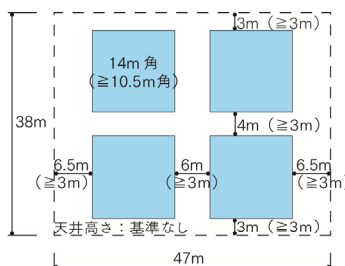
■卓球（12台）国内公式コート規格
※3



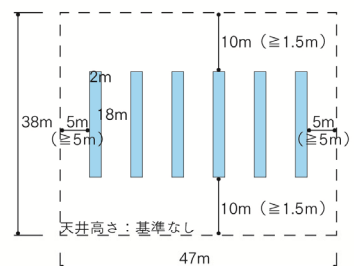
■フットサル（1面）国内公式コート規格



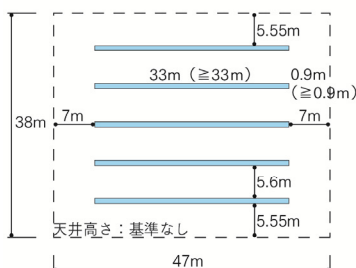
■柔道（6面）国内公式コート規格



■剣道（4面）国内公式コート規格



■フェンシング（6面）国内公式コート規格



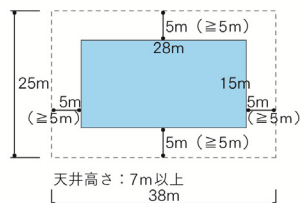
■綱引き（5面）国内公式コート規格

- ※1 車いすバスケットボールと同等
- ※2 ソフトバレーと同等
- ※3 サウンドテーブルテニス
卓球（障がい者部門）と同等

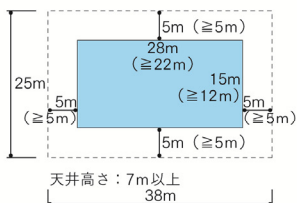
※ 平成28年2月現在の基準・規定により算定

【サブアリーナ】

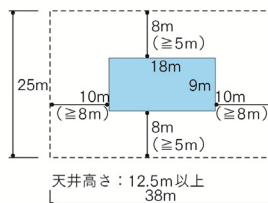
公式大会時のウォームアップ用のコートや小規模大会の会場として利用できるよう、各競技の公式コートの面数と配置から、25m×38m×梁下高さ7.0m以上とします。



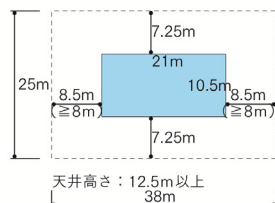
■バスケットボール（1面）国内公式規格 ※1



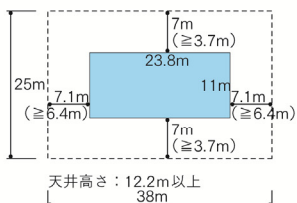
■ミニバスケットボール（1面）国内公式規格



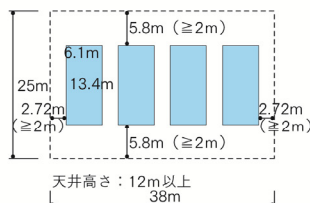
■バレーボール（6人制）（1面）国内公式規格



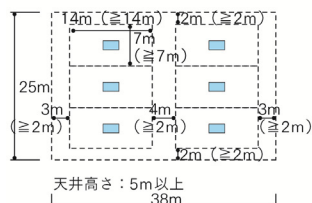
■バレーボール（9人制）（1面）国内公式規格



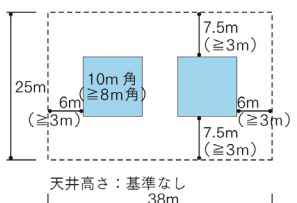
■テニス（1面）国内公式規格



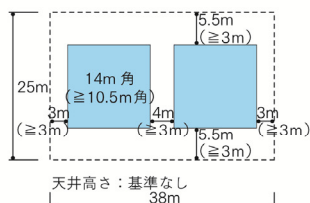
■バドミントン：ダブルス（4面）国内公式規格 ※2



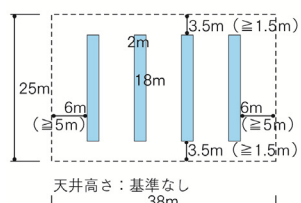
■卓球（6台）国内公式規格 ※3



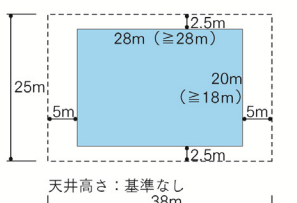
■柔道（2面）国内公式規格



■剣道（2面）国内公式規格



■フェンシング（4面）国内公式規格



■弓道（10人立）国内公式規格

※4

- ※1 車いすバスケットボールと同等
- ※2 ソフトバレーと同等
- ※3 サウンドテーブルテニス
卓球（障がい者部門）と同等
- ※4 近的射場

※ 平成28年2月現在の基準・規定により算定

【今後の課題】

メインアリーナ、サブアリーナ共に、平成28年2月現在の基準に基づきコート寸法を算定していますが、今後の建築設計において、各競技規定の変更に伴うコート寸法の確認をする必要があります。

2. 構造計画

(1) 地盤・基礎形式

既往の資料によると、計画地の地盤は、地表面から浅い範囲は、軟弱な砂質土・粘性土を主体とした沖積層で、地表面から1.5m以深が、固い砂質土を主体とした洪積層となっています。そこで、基礎形式には、杭により強固な地盤に支持する構造を採用し、建物の沈下がおきないようにします。

また、浅い範囲の地盤が、地震により液状化する可能性があることから、必要に応じて、表層部の地盤で支持する軽微な床の沈下対策や、杭の損傷防止対策として、地盤改良工法を併用します。なお、基礎工法の選定は前記条件に加えて環境、経済性に配慮した工法を選定します。

(2) 耐震性能と架構・構造形式

救援物資二次集積所、救護所、指揮機能集中拠点として位置づけている体育館の耐震安全性の分類は、官庁施設の総合耐震計画基準^{*}により、構造体Ⅱ類、建築非構造部材A類、建築設備甲類として計画し、耐震性能の目標は、大規模な地震後も、構造体および天井仕上材などの非構造部材や建築設備は、人命の安全確保が図られ、軽微な補修のみで継続使用が可能な性能とします。

部 位	分類	耐震安全性の目標
構造体	Ⅱ類	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られている。
建築非構造部材	A類	大地震動後、災害応急対策活動や被災者の受入れの円滑な実施、または危険物の管理のうえで、支障となる建築非構造部材の損傷、移動等が発生しないことを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。
建築設備	甲類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られていると共に、大きな補修をすることなく、必要な設備機能を相当期間継続できる。

^{*}官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説平成8年版（建設大臣官房官庁営繕部監修）より抜粋

主体構造は、体育施設の施工実績も多く、耐震性に優れ、塩害等の耐久性にも優れる鉄筋コンクリートまたは鉄骨鉄筋コンクリート構造が適しており、アリーナ上部の大屋根は、無柱の大空間、デザインの多様性、主体構造や基礎構造への荷重軽減が図られることから、鉄骨造による軽快なトラス構造で計画します。

3. 設備計画

(1) 電気設備

電気設備は、メンテナンスが容易で、長寿命に配慮し、ライフサイクルコストの低減が図れるものとします。

アリーナ照明をはじめ主体照明にはLEDランプを採用し、JIS照度基準（Z9110）による屋内公式競技（テレビ撮影対応含む）の照度を確保するほか、利用形態や競技に応じて明るさをパターン制御できるものとします。又、各種省エネルギー手法を検討しランニングコストの低減を図ります。

寒冷地かつ塩害対応として、屋外設備の耐塩対策を行うほか、受変電キュービクルや非常用発電機等の大型機器は屋内設置を基本とします。

自然エネルギー利用として太陽光発電設備（約10kW）を採用し、通常運転と停電運転に配慮した電源供給を検討します。

(2) 空調・給排水設備

空調設備は、日常的な市民利用時をメインに考え、エネルギー消費に対して、経済性及び維持管理に配慮した方式とします。

アリーナ部は、プロリーグ等の興業時の対応も含め、環境負荷低減に配慮したエネルギーを積極的に比較検討し、寒冷地及び塩害に対応し、ライフサイクルコストの低減が図れるものとします。

アリーナ以外のエントランスホール、事務室、多目的スペースなどは個別運転が可能な方式とし、ランニングコストの低減が図れるものとします。

給排水設備は、水資源の削減に配慮し、節水型機器・器具を積極的に採用し、雨水の雑用水利用などを検討します。

また、使用人員の変動に考慮した給水及び給湯設備を計画します。

(3) 災害時対応設備

災害時の救援物資二次集積所、救護所、指揮機能集中拠点への対応として、非常電源は72時間（3日分）供給可能な備蓄燃料を確保し、防災・行政ネットワークなどの災害活動への対応や、避難施設機能に配慮した設備を備えます。

また、トイレ洗浄水などに利用する雑用水は、雨水のほかにも、隣接するウェルネスパークの井水やプール水の利用も検討し、排水は緊急貯留槽やマンホールトイレの設置などを検討します。

V 事業手法の検討・管理運営方針の検討

1. 事業手法の検討

(1) 検討対象とする事業手法の選定

近年、PFI法（平成13年施行）に加え、公共工物品質確保促進法（平成26年施行）により、民間ノウハウや民間資金を活用した「官民連携手法」による事業方式が多様化し、体育施設においても導入実績が増えています。

過去数年の体育館における官民連携手法導入事例をみると、PFIが6件、ECI方式が2件（内1件は予定）、DB方式1件、DBO方式0件（PFI方式の比較対象となるものがほとんど）となっています。

事業方式	施設名	建設地	人口(人) (平成27年4月現在)	事業方式	床面積 (㎡)	事業者募集	事業者決定	期間
PFI方式	福岡市総合体育館	福岡市	1,492,045	BTO	21,000	2014年9月	2015年11月	14ヶ月
	帯広市新総合体育館	帯広市	168,389	BTO	14,000	2015年11月	2016年10月	12ヶ月
	川崎市スポーツ・文化複合施設	川崎市	1,466,444	BTO	26,000	2012年9月	2013年10月	12ヶ月
	袋井市総合体育館	袋井市	87,269	BTO	7,300	2015年6月	2016年7月	12ヶ月
	栃木県総合スポーツゾーン東エリア	宇都宮市	517,539	BTO	36,000	2015年8月	2016年12月	17ヶ月
	八王子市新体育館	八王子市	434,018	BTO	23,000	2010年9月	2011年12月	16ヶ月
ECI方式	水戸市東町運動公園新体育館	水戸市	270,540	—	15,910	2015年11月	2016年3月	4ヶ月
	四日市市新体育館	四日市市	312,106	—	15,000	未定	未定	—
DB方式	国立競技場	東京都	13,428,618	—	194,010	2016年8月	2015年12月	4ヶ月
DBO方式	事例なし	—	—	—	—	—	—	—

以降、設計・工事を対象とする「従来方式^{※1}」、「DB方式^{※2}」、「ECI方式^{※3}」と、設計・工事・管理を対象とする「DBO方式^{※4}」、「PFI方式^{※5}」の5つを候補とし、官民連携手法の導入の可能性を検討します。

※1 従来方式

民間事業者に設計、建設を個別に発注する手法。市が維持管理を行う（個別に委託）。仕様発注となる。資金調達は市が実施

※2 DB (Design Build) 方式

民間事業者（設計事務所）に基本設計、別の民間事業者に実施設計（Design）、建設（Build）を一括発注する手法。市が維持管理（Operate）を行う（個別に委託）。性能発注を前提とする。資金調達は市が実施

※3 ECI (Early Contractor Involvement) 方式

民間事業者（設計事務所）に設計（基本・実施）を発注、基本設計後に民間事業者（建設会社等）に建設を発注し、実施設計に建設会社等の仕様・コストの技術支援を反映させる手法。市が維持管理を行う（個別に委託）。仕様発注を前提とする。資金調達は市が実施

※4 DBO (Design Build Operate) 方式

民間事業者（設計事務所）に基本設計、別の民間事業者を実施設計、建設、維持管理を長期契約等により一括発注する手法。性能発注を前提とする。資金調達は市が実施

※5 PFI (Private Finance Initiative) 方式

PFI法に基づく手法。民間事業者に設計、建設、維持管理を長期契約等により一括発注する手法。性能発注を前提とする。資金調達は民間事業者が実施。施設の所有形態により、BTO、BOT、BOOの複数の方式がある。

(2) 官民連携手法導入可能性の評価

民間のノウハウ（施工技術の提案、管理運営方式の提案等）を設計段階で導入することで、特定の施工技術、仮設計画、管理運営方式に沿った設計が可能となり、より合理的に設計・施工を進められるメリットがあります。その分、従来方式では無かった様々な委託費の発生や、事業期間の延長などのデメリットも出てきます。

官民連携手法の導入には、事業ごとの特性に配慮し、施設の規模・用途だけでなく、都市規模や立地性（交通利便性等）、人口規模、人口動態など、さまざまな要素を総合的に判断し、導入を決定する必要があります。

ここでは、以下の8項目について、新体育館の特性に配慮した官民連携手法の導入可能性を評価します。

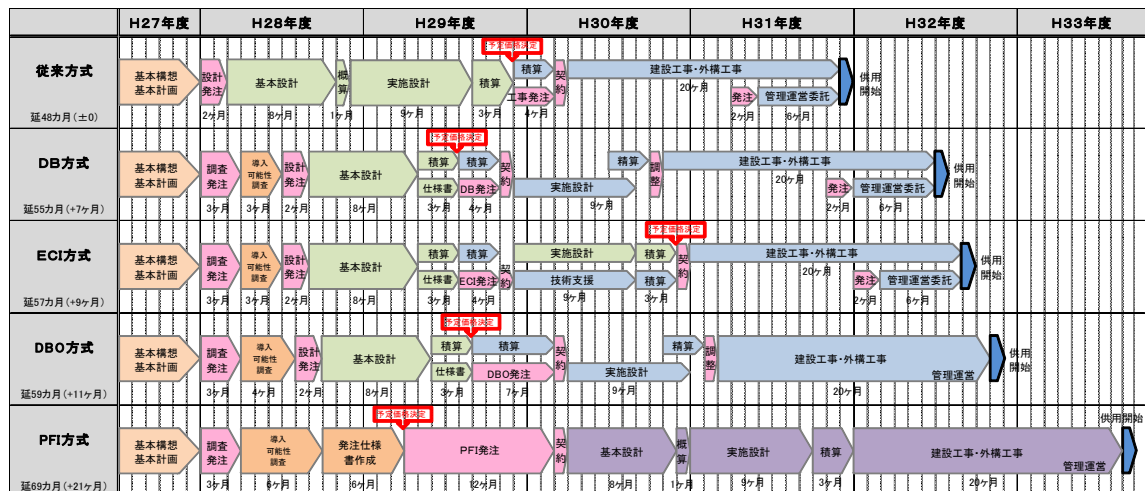
- ① 事業期間
- ② 官民連携手法導入に掛かる経費
- ③ 発注準備
- ④ 民間ノウハウの活用（施工技術の反映）
- ⑤ 民間ノウハウの活用（管理運営手法の反映）
- ⑥ 工事発注段階での競争性の確保
- ⑦ 工事発注段階での参加機会の拡大
- ⑧ 参加民間事業者にとっての事業採算性

① 事業期間

一般的に、導入可能性調査の完了までに要する時間は、調査発注仕様書作成、公告期間に最短で約3ヶ月、導入可能性調査期間に最短で約3ヶ月～6ヶ月必要と言われており、従来方式よりも約6ヶ月～9ヶ月の時間を要します。

さらに、PFI方式では、発注仕様書の作成に最短で約6ヶ月が必要となります。

官民連携の発注方式決定後も、従来方式には無い手続きが必要となり、全体では約7ヶ月～21ヶ月の事業期間を見込む必要があります。



② 官民連携導入にかかる経費

官民連携手法導入の可能性を判断するために、導入可能性調査業務委託費として、550万円～650万円程度を見込む必要があります。金額は、下表の平成27年度に公告された体育施設の導入可能性調査の予定価格を参考とします。

	予定価格(円) (消費税込)	床面積(m ²)	備考
西宮市新体育館・新陸上競技場等整備事業基本構想策定支援及びPFI等導入可能性調査業務	6,480,000	13,700	陸上競技場共
新潟県立武道館(仮称)PFI導入可能性調査業務	5,400,000	11,700	
川西市市民体育館建替えに伴うPFI導入可能性調査委託業務	6,000,000	2,800	

また、官民連携手法の導入後に掛かる経費として、民間事業者募集のための発注仕様書作成業務委託費が発生します。一般には基本設計業務委託費の50%程度を見込みます。

③ 発注準備

官民連携手法による事業方式では、入札書類や契約書等も、従来方式とは大きく異なり、発注業務実績のないむつ市では、導入に向けて発注者側での庁内の意見調整などの準備期間を、①の事業期間に加えて見込む必要があります。

さらに、発注支援業務を委託する事例もありますが、その場合は委託費として、500万円～600万円程度を見込む必要があります。

④ 民間ノウハウの活用(施工技術の反映)

民間事業者(建設会社等)の持つ特許工法や、特殊仮設計画の提案等の採用、先行資材発注、早期の施工図等の着手などにより、事業の合理化を図ることができます。その結果二次的に、工期の短縮や工事費の縮減が行える場合もあります。

新体育館においては、一般的な工法で建設が可能のため、特許工法や特殊仮設の採用、先行発注での工期短縮要素が少なく、メリットを享受できる可能性は低いと考えます。

⑤ 民間ノウハウの活用(管理運営手法の反映)

DBO方式やPFI方式での管理運営手法の提案を設計段階で取り込むことで、中・長期的な視点で事業の合理化を図ることができます。

新体育館においては、難易度の高い施設管理が要求されない(例:プールの水温水質管理等)ため、メリットを享受できる可能性は低いと考えますが、中・長期における計画的修繕等の視点から、導入の検討も別途必要です。

⑥ 工事発注段階での競争性の確保

官民連携手法は、設計段階で予定価格の設定に、市場の実態を反映させることを一つの目的として、民間事業者（建設会社等）を早期に特定しています。この段階では競争性はありますが、反面、工事発注段階での競争性が低くなる傾向にあります。よって、ともすれば工事費が「高止まり」となる場合もあり、設計期間中の金額の精査と監査を十分に行っていく必要があります。

⑦ 工事発注段階での参加機会の拡大

先行して参入できる民間事業者（建設会社等）に求められる能力は、過去の設計・施工実績や設計・施工に係る技術提案力、施工能力が評価されるため、様々な実績・ノウハウを有する大規模な民間事業者（建設会社等）が有利になりがちです。PFI方式の場合は、資金力も問われるため、大企業を中心とした、さらに「狭き門」となります。

地域経済への波及効果を考慮し、参加の機会の拡大を図るために、JV（特定共同企業体）方式での参加を義務付けるなど、中小規模の民間事業者（建設会社等）の参加に配慮した発注条件を整理し、参加の公平性を確保する必要があります。従来方式と比べると、工事発注段階での参加公平性は低くなります。

⑧ 参加民間事業者にとっての事業採算性

DBO方式やPFI方式の場合、民間事業者にとって、施設の管理運営における事業採算性も事業参加への重要な判断基準となります。特に、施設利用料以外での自主事業（スポーツ教室、イベント、興業、自動販売機、売店等）での収益性は、VFM^{*}の向上に必要な項目の一つとなります。

VFMは、施設用途や規模だけでなく、人口規模、立地、交通利便性などの観点から判断されます。例えば、他都市の同規模体育館では、県庁所在地に近く交通利便性がよい、人口規模が大きい（9万人弱、人口は増加傾向）、県内にプロスポーツホームチーム（サッカー、バスケットボール、バレーボール）を複数有しイベント誘致の可能性が高いなど、VFMを向上させる条件が揃っています。

新体育館の場合、立地的条件、施設規模、利用人口規模等から考え、VFMが向上する可能性が低く、複数の民間事業者が積極的に参加意向を示すことは難しいと考えます。

※VFM：Value For Moneyの略。PFI事業等における最も重要な概念の一つで、支払い（Money）に対して最も価値の高いサービス（Value）を供給するという考え方。従来方式と比べてPFI方式等の方が総事業費をどれだけ削減できるかを示す割合

(3) 新体育館の事業手法の選定

評価の結果から、従来方式が最も適していると判断します。

		従来方式	DB方式	ECI方式	DBO方式	PFI方式
①事業期間の短さ		±0	+7ヶ月	+9ヶ月	+11ヶ月	+21ヶ月
②官民連携手法導入に掛かる委託費 (少ない方が○)		○	△	△	△	×
③発注準備(発注のしやすい方が○)		○	△	△	△	×
④民間のノウハウ活用(施工技術の反映)		×	×	×	×	×
⑤民間のノウハウ活用(管理運営手法の反映)		×	×	×	○	○
⑥工事発注段階での競争性の確保		○	×	△	×	×
⑦工事発注段階での参加公平性の確保		○	△	△	△	×
⑧参加民間事業者にとっての事業採算性		—	—	—	△	△
発注区分	基本設計	個別発注	個別発注	個別発注	個別発注	一括発注
	実施設計	個別発注	一括発注	個別発注 技術支援	一括発注	
	建設工事	個別発注		個別発注		
	管理運営	個別発注	個別発注	個別発注		
	資金調達	市	市	市	市	

凡例: :民間事業者(設計事務所) :民間事業者(建設会社) :民間事業者(SPC) :むつ市

その他、従来方式としては以下のメリットもあります。

- ・発注者が仕様、コストを把握しやすい
- ・設計過程での発注者の要望の反映がしやすい
- ・各段階での事業工程の見直しをしやすい

なお、従来方式では対応しにくい「民間のノウハウの活用（施工技術の反映）」については、今後の設計作業と並行して、以下の検討を行うことで対応可能と考えます。

- ・一括発注方式による経費縮減の検討
- ・技術提案型競争入札方式（入札時VE[※]方式）と技術提案型総合評価入札の比較検討

※VE: Value Engineeringの略。建物の「価値」を、「機能」と「コスト」との関係で把握し、「コスト」を抑えて同等以上の「価値」を生み出す手法

また、「民間のノウハウの活用（管理運営方式の反映）」については、今後、従来方を前提とし管理運営方式の検討を行っていく必要があります。

2. 施設管理・運営方針の検討

(1) 検討対象とする施設管理運営手法の選定

公共施設の管理運営手法には、下表の5つの方式があり、その内、リース方式と施設貸与・譲渡方式は初期条件が異なり、民設民営方式は、「1. 事業手法の検討」で示した通りのため、本事業で選択可能な方式は、公設公営の「直営方式」と、公設民営の「指定管理者方式」の2方式に絞られます。

	公設公営	公設民営		民設公営	民設民営
	直営方式 (一部業務委託を含む)	指定管理者方式 (管理運営委託)	施設貸与・ 譲渡方式	リース方式	PFI方式、 DBO方式等
設置主体	公共団体	公共団体	地方自治法 第238条の4 の対象施設外	公設事業 のため 対象外	事業方式の 選定におい て対象外
運営主体	公共団体 (一部民間委託)	民間			

(2) 施設管理運営基本方針

施設管理運営方式を比較検討するにあたり、施設管理運営基本方針を整理します。

1 サービスの質の向上と利用率の向上

- ・民間資源（企業のノウハウや地域のスポーツ団体など）の活用
- ・市民の多様なニーズに応じた多様なプログラムの実施
- ・利用実態に応じた体育室などの活用（区分利用や個人開放など）
- ・適切な利用方法（利用時間、予約システム等）の整備による施設の高効率利用

2 管理運営の効率化と維持管理費の縮減

- ・長期的な維持管理コストと地域社会の変化に対応した長期運営計画の策定
- ・長期事業計画における運営安定性やコスト縮減効果の比較検証と長期計画立案

3 事業展開の柔軟性

- ・ネーミングライツや市内スポーツ関連企業との連携・提携等の事業展開の立案
- ・一部利用者の自主運営組織、運営ボランティアや運営組織への市民参画など、「新しい公共」の観点からの運営手法の導入・立案

4 スポーツスクエアとしての利用展開

- ・総合型地域スポーツクラブをはじめとするスポーツ団体・ボランティアとの連携や、地域のネットワークの構築・活用による、市民に身近な施設づくり
- ・スポーツ以外に、地域イベントや観光などの利用を高め、市民を中心に多くの人々が集まる拠点としての活用を高める運営
- ・観光などの関連団体や、地域連携に関するノウハウを有する運営団体との連携
- ・隣接のウェルネスパークとの、一体的な管理運営を想定した場合の、維持管理費の縮減、サービスの相乗効果を創出させる運営

(3) 施設管理運営方式の比較検討

施設管理運営基本方針を踏まえ、以下の7項目について、施設管理運営方式を評価します。

- ① 責任の明確さ
- ② 行政目的での利用のしやすさ
- ③ 人員配置の柔軟性
- ④ サービスの質の向上、事業展開の柔軟性
- ⑤ 維持管理費の縮減
- ⑥ 管理運営履歴の蓄積と継承
- ⑦ 発注手続きの容易性

	公設公営		公設民営	
		直営方式 (一部業務委託を含む)		指定管理者方式
設置主体	公共団体		公共団体	
運営主体	公共団体		民間	
①管理運営責任の明確さ	○	責任の所在は明確である	△	仕様書により責任範囲を明確にしておく必要がある
②行政目的での利用のしやすさ	○	行政の都合による目的外利用がしやすい	△	運営委託のため、行政の都合での目的外利用はしにくい
③人員配置の柔軟性	△	原則自治体雇用の職員であり、人事の自由度は低い	○	曜日や時間帯による効率的な人員配置や、専門家の配置など、適材適所の配置が可能
④サービスの質の向上、事業展開の柔軟性	△	サービスの固定化、マンネリ化の恐れがある。行政手続きに沿った事業展開のため対応が遅くなる可能性が高い	○	専門性の高いスタッフの配置、最新情報取得のしやすさから、新しいサービスの提供を迅速に行える
⑤維持管理費の縮減	△	人件費(自治体雇用)の圧縮や、効率的な人員配置が難しい。業務のアウトソーシング化等による委託費の発生など、維持管理費を縮減しにくい	○	マルチタスクの導入、維持管理に即した機器の導入、適切な人員配置による維持管理費の縮減を行いやすい
⑥管理運営履歴の蓄積と継承	○	永続的に同一組織による運営のため、蓄積と継承を行いやすい	△	委託期間満了後に管理者が変わった場合、以前までの管理情報、施設情報の継承がスムーズに行われない可能性がある
⑦発注手続きの容易性	○	行政内部の処理のみ	△	発注仕様書の作成、公告、評価など、選定に至る手続きが必要。また、指定管理者を担える事業者の募集範囲の設定や、審査の有効性、競争性の確保などの環境の整備も必要となる

上記の評価結果では、施設管理運営基本方針に直接的に関係の深い③、④、⑤の項目において、指定管理者方式が優位となります。

しかし、むつ地区体育施設、大畑地区体育施設、ウェルネスパークの3施設は指定管理者方式を採用しているものの、その他の体育施設は直営方式(一部業務委託を含む)を採用していることもあり、今後は、市全体のスポーツ施設の施設管理運営の方向性との整合と、設計業務を進める過程での、建築計画的な側面からの直営方式と指定管理者方式のメリット・デメリットの検証を行い、建築計画と整合を図った施設管理運営方針に則り、施設管理運営方式を決定すべきと考えます。

(4) 今後の検討項目

今後の施設管理運営方式の検討に際しての検討項目を整理します。

1 施設管理運営団体に求める業務の検討

新体育館に求められる機能を的確に発揮できる業務範囲の検討を行います。

- ・受付・貸出、清掃などの日常的な運営業務
- ・施設利用を促進させる広報活動
- ・高齢者を中心とした設備を含めた施設のメンテナンス
- ・有効活用、地域のスポーツ振興のための事業の企画・実施
- ・ウェルネスパークとの積極的な連携と地域イベントなどでの支援
- ・防災拠点としての対応

2 施設管理運営団体に求める資質と対象団体の検討

適切な市民サービスを行える施設管理運営団体の可能性の検討を行います。

- ・幅広いノウハウと安定的なサービスを担える組織力
- ・第三セクター、単独企業、専門性を有する団体（企業）のJV
- ・他自治体における体育館の指定管理者団体、自主事業の調査

例1：スポーツ教室及び高齢者の健康づくり教室

スポーツ製品メーカーや民間スポーツクラブ小学生を対象とした各種
屋内競技入門教室、高齢者を想定したヨガ教室など

例2：総合型地域スポーツクラブ

施設を拠点として地域のクラブとの連携や情報掲示板機能などを導入

例3：トレーニングジム用品などのリース

メーカーによる最新トレーニングマシンを指定管理期間内でリース

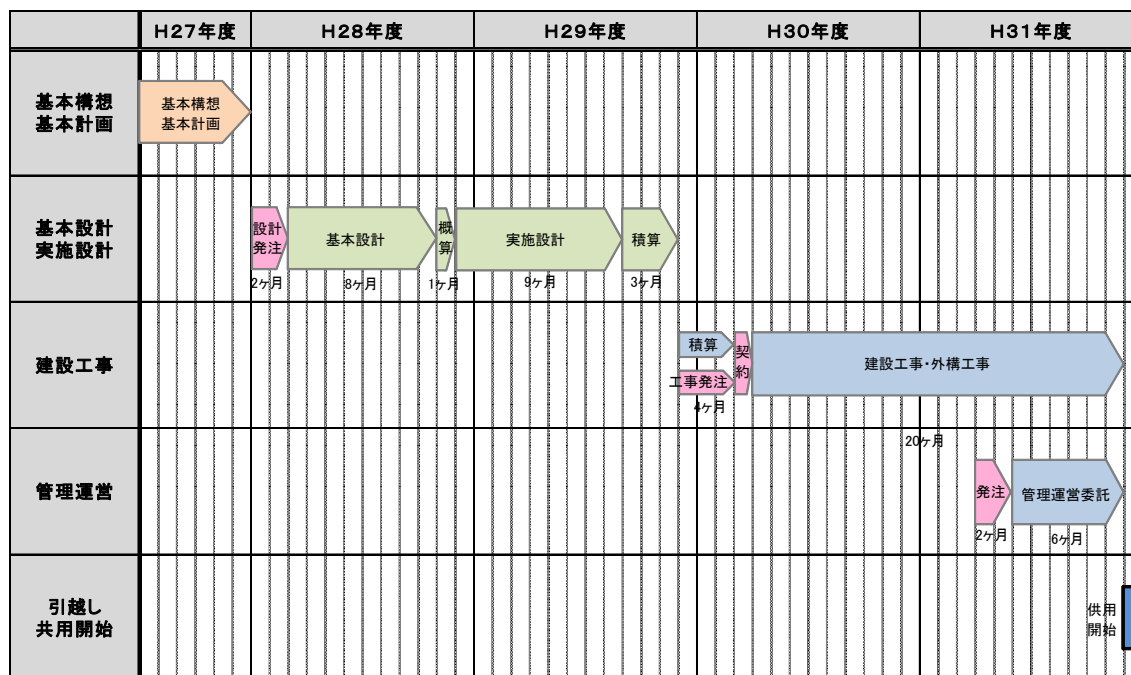
3 仕様書および発注方式（指定管理者方式の場合）の検討

- ・本事業に適した仕様書の検討（管理責任範囲、業務範囲、自主事業範囲等）
- ・ウェルネスパークとの一体管理可能性の検討
- ・指定管理期間の検討（5年、10年）

VI 事業スケジュール及び事業費概算

1. 事業スケジュール

V章の結果だけでなく、市民の強い要望である早期建設や、むつ市の屋内スポーツ施設配置の課題に見られる施設の必要性、既存施設との連携による有効利用の可能性等、総合的に判断し、従来方式による事業スケジュールを示すとともに、平成31年度内の供用開始を目指します。



2. 事業費概算

全国及び青森県内での直近の類似施設の床面積と工事費を参考に、現在想定している建設地および基本計画の規模に対し、概算事業費を40億（税込み）と試算します。

単位:円

費目	概算額
建設工事費	3,025,000,000
造成・外構費	355,000,000
什器備品費	30,000,000
委託費等	150,000,000
用地費、その他経費	440,000,000
総事業費	4,000,000,000

※価格は消費税相当額を含む

Ⅶ 市民意見に見られる新体育館への要望

1. むつ市民への意向調査

【市民ワークショップ】

第2回市民ワークショップ

開催日：平成27年12月12日 13:00～15:00

場 所：むつ市第三田名部小学校体育館

第2回市民ワークショップでは、建設地がウェルネスパーク隣接地に決定したことを踏まえ、新体育館に求められる機能と規模について多岐にわたりお話しいただき、貴重なご意見をいただくことができました。

むつ市新体育館 基本構想・基本計画

平成27年12月発行

わーくしょっぷ通信

vol. 2

主催：むつ市民生部 市民スポーツ課 協力：山下設計 東北支社 / 仙台高等 坂口研究室
〒035-8686 青森県むつ市中央1丁目8番1号 (TEL) 0175-22-1111

第2回 むつ市新体育館市民ワークショップを開催しました！



平成27年12月12日(土) 13:00～15:00に、むつ市立第三田名部小学校体育館において、第2回むつ市新体育館市民ワークショップを開催しました。各スポーツ協会の方々を中心に、24名の方にご参加いただきました。今回のワークショップでは、第1回むつ市新体育館市民ワークショップの意見やアンケート結果を踏まえ、類似体育施設の事例と共に、新しい体育館の使い方を共有しながら、メインアリーナ規模や配置計画について多くの意見が交わされました。

<今後の予定>

第3回 2016年2月13日(土) 10:00～12:00
場所：むつ来さまい館 イベントホールB
「新しい体育館を使ってみよう」

<市民ワークショップの目的>

現在、耐震診断の結果から閉鎖となった、むつ市民体育館の代わりとなる「むつ市新体育館」の基本構想・基本計画の策定が行われています。むつ市では、今回のワークショップも含め残り2回、ワークショップを行い、スポーツ団体を中心にいただいた意見をもとに、新しい体育館づくりをしていきます。

<当日の様子>

今回の第2回ワークショップでは、A・B・Cの3つのグループに分かれていただき、①類似体育施設の規模や機能構成をもとに施設の規模を確認、②1,500の敷地面積とブロック模型を使いながら、施設の配置案の検討の2つの課題について意見を交わしました。ワークショップ後は、進行役がグループ内の意見を発表し、参加者全員で情報を共有しました。

<第2回 市民ワークショップの意見>

Aグループ

<施設規模>

- メインアリーナはバスケット3面分。
- 観客席数1000席～1500席。(4層に可動席)
- サブアリーナはバスケット1面分。
- サブアリーナには、弓道場・武道場を併設。

<配置計画>

- サブアリーナには、弓道場・武道場を併設。
- 駐車場、エントランスをメインストリートに向けて配置

Bグループ

<施設規模>

- メインアリーナはバスケット2面分。
- 観客席数600席～1000席。
- サブアリーナはバスケット1面分。

<配置計画>

- 多目的スペースとしても利用できる弓道場の設置。
- 充満ドームと繋がる動線計画。
- 体育館周りを車で周回できるように。

Cグループ

<施設規模>

- メインアリーナはバスケット3面分。
- 観客席数1500前後を4面に配置。
- 仮設や可動式ステージとすることで、アリーナ面積を広く確保。

<配置計画>

- 充満ドームと一体化の施設。



項 目	新体育館への要望	
競技別	綱引き	最近開催された大会での来館者数は500人程度
	バスケットボール	バスケットコート3面あれば、バレーコート4面、バドミントンコート8面確保可能 プロバスケットチームのホームとする場合は観客席5000席必要となるので、そこまでは必要ない サイドライン間隔5m、エンドライン後方7m欲しい
	弓道	南北配置が多いが、室内配置なので方向は気にしない 多目的室と兼用でよい(ギャラリ二下を利用できないか) 屋内でも屋外でも可。できればきちんとした屋内弓道場が欲しい
	グラウンド・ゴルフ	平成28,29年ははらっぱるで大会開催予定。選手数500名以上となる
	フェンシング	与えられたスペースを利用して対応する
	ボルダリング	屋内での設置は高さには制約があるため、屋外設置でどうか

50

項 目	新体育館への要望
アリーナ	全国大会誘致にはサブアリーナが必須 球技・武道が出来る総合体育館 サブアリーナの天井高は7m程度でよい 天井高はバレーボールを基準に検討する メインアリーナ:バスケ3面、サブアリーナ:バスケ1面 サブアリーナを2階建てとし、1階を武道場、2階をアリーナとしたい メインアリーナ:バスケ2面、サブアリーナ:バスケ1面で両方で大会開催可能な設備とする メインアリーナとサブアリーナで別々な競技が大会を開催できるとよい メインアリーナとサブアリーナは隣接して配置する。しかし、館の音がまぎれないようにする メインアリーナとサブアリーナは屋内でつながっていれば別棟でも構わない メインアリーナは旧市民体育館の倍くらいあればよい 2階建てとし、下にサブアリーナ、上にメインアリーナを設置 しもきた克雪ドームをサブアリーナとして利用
器具庫	地下に倉庫をつくり、エレベーター等でスムーズに出し入れできるようにしたい
トレーニングルーム	センターハウスは健康増進目的であり、本格的な筋トレのできる設備が欲しい
観覧席	バスケはエンドライン近くまで観覧席を配置できる 1000～1500席。1階には可動席を設置 サブアリーナの観覧席は必ずしも必要ない 1500席を4面に設置 観覧席から直接アリーナに下りるのではなく、廊下を介した方がよい
ステージ	ステージは必ずしも必要はない ステージは仮設で良い。その分、アリーナを広く利用したい ステージを常設すると、上部空間が必要となり、ランニングコースが取れない。なので仮設で十分
事務室、会議室等	センターハウスにある事務室と連携のしやすい位置に、新体育館の事務室を配置する
雪	南西側(海側)からの風が雪を運んでくるので、対策を考えるべき
運営	しもきた克雪ドームとの連携により、事務室などの機能を集約できる しもきた克雪ドームと機能分けを行うことで、どちらかが利用できない場合のバックアップが可能 しもきた克雪ドームとセンターハウスは渡り廊下でつながっており、新体育館も接続できるとよい センターハウスは、主婦層の利用が多い 冬季の利用に配慮が必要
交通、駐車場	相応の台数を検討 駐車場にもコートラインを描くことで、屋外スポーツにも利用できる 南側の道路から入るような動線計画とする 踏切と信号で渋滞を起す 大会時もウェルネスパークの駐車場で足りており、よほど足りない場合でも周囲の空地を利用できる 大会時は、団体はバスを利用する
配置、屋外施設	敷地の南側を空地として、駐車場や将来の増築スペースと考える しもきた克雪ドームの庇の下はランニングコースとして利用されており、同様の機能があると良い 休館日に屋外から利用できるトイレが欲しい

第3回市民ワークショップ

開催日：平成28年2月13日 10:00～12:00

場所：むつ来さまい館 イベントホールB

第3回市民ワークショップでは、これまでの市民ワークショップやアンケート等の結果を踏まえ、模型等を用いて新しい体育館の規模や機能構成について、多岐にわたる貴重なご意見をいただくことができました。

むつ市新体育館 基本構想・基本計画

わーくしょっぷ通信

平成28年2月発行

vol.3

主催：むつ市民生部 市民スポーツ課 協力：山下設計 東北支社 / 仙台高等 坂口研究室
〒035-8686 青森県むつ市中央1丁目8番1号 (TEL) 0175-22-1111

第3回 むつ市新体育館市民ワークショップを開催しました！



平成28年2月13日(土)10:00～12:00に、むつ来さまい館イベントホールBにおいて、第3回むつ市新体育館市民ワークショップを開催しました。各スポーツ協会の方々を中心とし、20名の方にご参加いただきました。今回のワークショップでは、第2回市民ワークショップの意見やアンケート結果を踏まえ、近年の体育館の事例や使い方を共有しながら、各スポーツ協会の方々から大会や練習時の利用方法、備品やトレーニング室、会議室などの付属施設に対する意見やスポーツ競技以外の利用方法など多くの意見をいただきました。

<市民ワークショップの目的>

現在、耐震診断の結果から閉鎖となった、むつ市民体育館の代わりとなる「むつ市新体育館」の基本構想・基本計画の策定が行われています。むつ市では、これまでに今回を含め3回に分けてワークショップを行い、スポーツ団体を中心にいただいた意見をもとに、新しい体育館づくりをしていきます。

<当日の様子>

今回の第3回ワークショップでは、新体育館の模型と図面を用いながらの意見交換となりました。実際に形を見ることで、アリーナの規模や器具の収納方法、スポーツ競技以外の利用の仕方等に対し、検討しやすかったのではないかと思います。ワークショップの終盤には、当日挙げられた意見を発表し、参加者全員で情報を共有しました。



図面を用いて、新体育館の機能について意見をいただきました。

<第3回 市民ワークショップの意見>

【競技種目毎の使い方からみる検討項目】

- ・サブアリーナにバスケットボールコート2面確保。
- ・ラインテープが貼れない床の施工。
- ・大会運営上、同時期に準決勝、決勝戦を行うためのバスケットボールコート4面確保。
- ・丈夫な床材の使用。
- ・十分な観覧席の確保。
- ・弓道に用いる練習書の収納。
- ・間仕切りネットの設置。



新体育館に対する意見

【備品室など付属施設の検討項目】

- ・競技器具がスムーズに取り出せる器具庫の設置。
- ・全競技併用可能な電光掲示板の設置。
- ・大会規定を確認した上で、各スポーツ協会から意見を聴取。
- ・大会の規模に合わせ、使用できる会議室の設置。



新体育館 図面

【予約時間など運営内容に対する検討項目】

- ・公開くじなどによる公平な予約方法の実施。
- ・上足、下足の境界が分かるサイン計画。



新体育館 模型

【スポーツ競技以外の利用方法の検討項目】

- ・施設の外側にコンセントを設置。
- ・駐車場にも、いつでも利用できるトイレの設置。

項目		新体育館への要望
競技別	バスケットボール	大会運営上の公平性の確保のため、同時期に準決勝と決勝を行うためにはコート4面が必要 東通体育館や大畑体育館等を使ってバスケット祭りをやっている サブアリーナにもバスケットゴール(移動式)を配置して欲しい 練習用コートを縦2横2計4面配置というのは可能か
	弓道	基本計画書のサブアリーナの要求に10人立とあるのは誤解を生むので削除 床の保護材、安全対策用パーテーションがあるとよい
	柔道	通常の大会では2面で十分だが、東北大会クラスだと4面必要

項目	新体育館への要望
アリーナ、ステージ	<p>サブアリーナをなくし、メインアリーナにバスケットボールコート3面という事例も全国ではある メインアリーナはネットで仕切り複数の練習用コートが確保できるようにして欲しい プロリーグの試合時のように、メインアリーナ中央に1面のみのコートラインも設定して欲しい メインアリーナ+サブアリーナでバスケットボールコート4面の可能性はあるのか サブアリーナにバスケットボールコート(練習用)2面を確保できないか 剣道の床は木製でなければならない コートテープの貼り方や、剥がす際に木製床と一緒に剥がれないようにして欲しい 卓球の小学生大会では選手500人+観客が入るので、床の仕上げや耐荷重にも配慮が必要 大会時にアリーナ内には設置できないので、多目的スペース等を利用できるようにしてはどうか</p>
器具庫	<p>各競技の器具が十分に収納でき、出し入れのしやすい器具庫として欲しい 柔道畳の収納スペースが必要 弓道練習用畳の収納スペースが必要 卓球台は26台あり、表面は傷つきやすいので、手前に収納し出し入れをし易くして欲しい</p>
事務室、会議室等	<p>大会時の役員室として兼用でき、可動間仕切りで区切れると大会規模に合わせた使い方がしやすい 大会役員室や審判室は協議にも使うため個室が必要 2階の観覧廊下にも諸室を配置して有効利用できないか</p>
設備	<p>諸室ごとに空調の制御(入・切)ができるようにして維持管理費を抑えられう用にしたい 協議により得点盤の内容が違っているので、全競技対応の電光掲示板があると便利</p>
運営	<p>50年、100年と長く使える体育館にしたい 下足ロッカースペースの大きさは、上足の履き替え範囲などの運用、大会時の運用による コート予約に不公平感が出ないように、公開くじ引きなどの予約方法を検討して欲しい 上足：下足のエリアを示すサインが必要 スポーツ以外の利用も含め、まちづくりの拠点となるような体育館になるとすばらしい</p>
駐車場、屋外施設	<p>南側イベントスペース(将来対応)を駐車場として利用できるようにして欲しい 渡り廊下の位置の検討 イベント時に建物外部で裸火(プロパン、炭火等)が利用できるようにして欲しい イベント時に外部で電源が使えるようにして欲しい(現状は屋内からリールで延長指定利用している) 冬季に屋外からも利用できるトイレを設置して欲しい イベント時に屋内トイレを屋外側からも利用できるよう扉を設置してはどうか</p>

【パブリックコメント】

開催日：平成28年1月22日～2月5日

場所：むつ市ホームページ、市役所窓口 等

パブリックコメントにおいて、6名（直接提出3名、郵送1名、E-mail2名）の市民の方から貴重なご意見をいただくことができました。

主な意見内容を以下にまとめます。

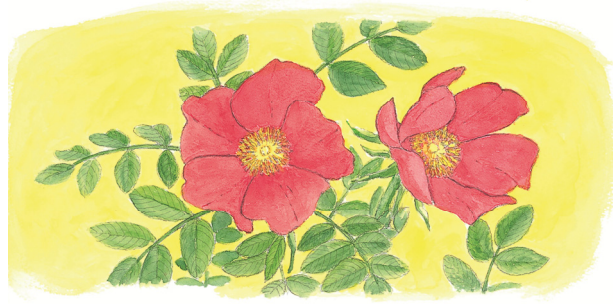
- ・防災拠点機能、位置付について
- ・ネーミングの公募について
- ・アリーナのコート面数の拡充について
- ・設備（音響、応急用電源接続端子の設置、イベント器材の搬入等）について
- ・施設利用料、安全管理等の施設運営について
- ・夜景観光の魅力アップ（施設のライトアップ）について

2. 市民への意向調査における要望の整理

市民への意向調査結果より、新体育館建設に向けての多様なご意見をいただきました。各競技に関するご意見も含め、主には以下の8項目のご意見に整理でき、これらのご意見を基本計画に反映させます。

1. アリーナに関するご意見
2. 観覧席に関するご意見
3. ステージに関するご意見
4. 器具庫に関するご意見
5. 各諸室に関するご意見
6. 設備に関するご意見
7. 運営に関するご意見
8. 外構に関するご意見

むつ市の花・木・鳥



『はまなす』



『ひば』



『はくちょう』

平成21年9月1日制定

むつ市新体育館基本構想・基本計画


平成28年3月

発行：むつ市

編集：むつ市 民生部 市民スポーツ課

承認第2015100L 号



 む つ 市